

NACT YOUTH PROJECT
2023

美術館に生まれた
新しい「表現の学び舎」

2期生

新美塾!

記録集

NACT YOUTH PROJECT
2023

美術館に生まれた
新しい「表現の学び舎」

2期生

新美塾!

記録集

目次

ご挨拶.....	03
中高生向けの“表現の塾”を作る その2 下道基行	04
新美塾!道中 宮下咲	06
「好き」と「仕事」の関係性	08
TIME LINE	10
集会	12
ミッション	13
ラジオ / グループLINE	14
手帳	15
ミッションと集会について.....	16
塾生の感想から.....	56
卒業後の保護者のアンケートから.....	58
スタッフコメント	60
『NACT YOUTH PROJECT 新美塾! 2022-2023 2年間の軌跡』展示.....	62

ご挨拶

国立新美術館では、2007年の開館以来、「参加し交流し創造する美術館」をテーマに幅広い世代に向けて様々な教育普及事業を展開してきました。私たちは、美術をはじめ芸術・文化は人々、とりわけ思春期にあたる10代の心身の成長にとって欠くことのできない重要なものであると考えていますが、当館からユースに向けて提供する活動機会は決して十分ではありませんでした。そこで、開館15周年となる2022年、美術館がこれからの時代を担う10代の表現力と創造性をはぐくむ場となることを目指し、アーティストの下道基行氏を塾長に迎えて、《NACT YOUTH PROJECT 新美塾!》を立ち上げました。本記録集では、2023年7月から12月にかけて行われた新美塾!第2期の活動について報告いたします。

新美塾!は、13歳から18歳までのユースたちが、導き手となる下道塾長とともに、身の周りのものごとを再発見しながら、世界の見方を広げ、表現について考え学んでいく半年間にわたるプログラムです。第2期では、中高生13名が入塾し、「ミッション」、「オンライン会」、「オフ会」、「新美塾!ラジオ」などの活動を重ねていきました。ミッションやオフ会の内容は、「自分の日常を観察する」をテーマに、その時の塾生たちに合わせて下道塾長と美術館スタッフが何度も話し合って決めます。表現とは何か、という一つの正答が無い問いに、塾生と一緒に大人たちも真剣に向き合い、全力でこのプロジェクトに挑んできました。第2期の最後には、塾生たちからの発案で、美術館のロビーに2日間限定で出店するという予想外の「表現」も生まれ、半年間の活動は達成感と高揚感の中、締めくくられました。本記録集を手にした方々に、10代の塾生たちがとらえた日常と新美塾!の軌跡を少しでも知っていただければ幸いです。

2023年度は、新美塾!第1期・第2期の活動を紹介する展示も行き、多くの方々にご覧いただくことができました。オフ会で訪問させていただいた建築家の能作文徳さん、アーティゾン美術館、さいたま国際芸術祭2023、プロジェクトの実施にご支援・ご協力くださいました株式会社小学館、モレスキン・ジャパン、そのほかお力添えくださいました全ての機関と関係各位に、心より御礼申し上げます。そして、第2期も塾長として新美塾!という唯一無二の学び舎を共に開いてくださった下道基行さん、本当にありがとうございました。

国立新美術館



NACT YOUTH PROJECT 2023 新美塾!記録集

中高生向けの“表現の塾”を作る その2

下道基行

(新美塾! 塾長 / 写真家・美術家)

僕自身、中学高校での生活は、試験のための暗記や点数をかせぐための特殊な競技をさせられているような日々だった。ゴールはもちろん大学合格。しかし、その先の社会や仕事に、この勉強がどのように結びつかはぼんやりしたまま、ただただ順応し走り続けていた。その風向きが変わったのは高校2年。同級生たちとバンドを組み、別の高校のバンドと一緒にライブを行うようになったり、さらに近所の画塾に通い始めるようになって、表現する面白さを知る仲間たちと出会ったのがきっかけで、(いい意味で)徐々に道を外れていった……。 (美術大学へ進学すると、日本全国から集まった美術やデザインや工芸や建築などを志す仲間ができて多くの刺激を受けていった。)



新美塾!には、表現が好きなユースたちが参加する。絵が好き、音楽が好き、演劇が好きなど、まだ専門性は持たない。年齢は13歳(中1)から18歳(高3)まで幅広く、住んでいる場所はバラバラだ。2週間に1回はオンラインで、そして1ヶ月に1回は東京のどこかで、その全員が集まる。ミッションと呼ぶ新美塾!独自の課題の内容は、「日常の定点観測(インスタントカメラで毎日4枚ずつ、自分の日常風景や家族や友人を撮影しよう!)」など、自分自身の日常の観察をベースに制作。各自2週間でその課題に取り組み、みんなでオンラインで発表し合う。すると、中学生の塾生が、高校生たちを驚かせるような興味深いアウトプット/発表をすることが起こる。年齢が上がるにつれて、ミッションの意図を考えたり答えを導き出そうとする能力が上がる反面、表現には欠かせない“柔軟な発想”や“遊び心”が弱くなっていく傾向に驚かされることがあった。

日本の受験や学校教育のシステムは、中国の科学の影響があるという。もしそれが本当なら、中国で千年以上も続いたこの制度の、階級などに関係なく全ての市民に開かれた(官僚登用)試験である点と、膨大な量の暗記を行い高い競争率の試験を通過さえすれば、地位や名誉を獲得できるという(さらに試験自体が目的化してしまう)点で、まさに日本の学校教育に深く根を張っているし、その呪縛から抜け出すのは容易ではないだろう。

さらに、学校は集団生活。同じ地域の同じ年齢の子供たちが集められ、協調性を持って働ける社会人を育てるためにデザインされた“トレーニング”のようでもある。周囲と同じように机に向かい、大人の期待や意図に応えようとするのが“当たり前”になる。(その結果、大学に入学しても、高校までとはまるで違う専門性と放任的な教育に多くの学生は戸惑ってしまう。僕の場合も、美大受験で石膏デッサンをしたのに、急に大学では放任的な課題になり戸惑った。多くの大学生が受験や答え探しの競技から解放されたにも関わらず、そこから抜け出せない。その後、ようやく大学に慣れてきた頃には再び就職試験に巻き込まれていく……。)

一般的に美術や表現の塾といえば、《幼児や低学年が通う絵画教室》や《高校生向け美術予備校》、そして《大人向けのカルチャーセンター》がすぐに思い浮かぶ。新美塾!は、そのどれも違うだろう。(構想段階での新美塾!のイメージは、“中高生向けの「美学校」や「Bゼミ」”だった。)内容は、通信教育的なミッションやオンライン会に加え、アーティストや建築家などに実際に会いに行き、そして展示会を鑑賞しみんなで話し合うオフ会や、グループライン上にラジオ番組を作ったりもする。その中で経験するのは、“表現が持つ自由さ”に触れること、そして“現代美術が持つ柔軟な発想と遊び心”を吸収すること。そして何より、一人孤独に“表現の種”を育ててきたユース同士の出会いがある。

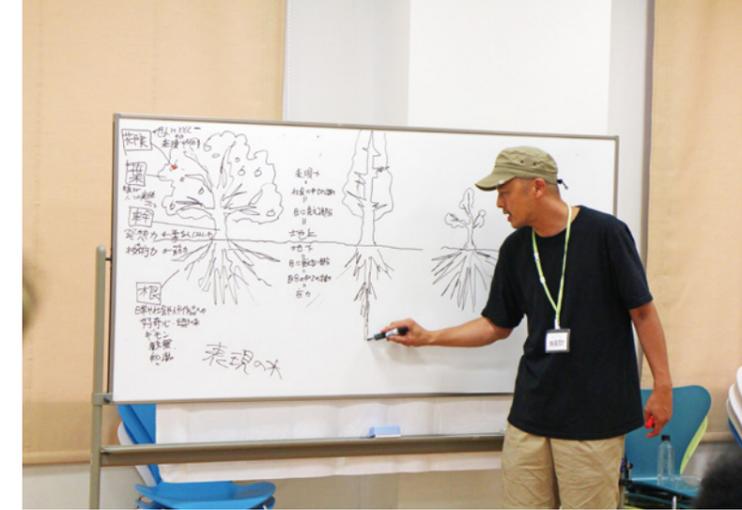


これは作家になるためのトレーニングではなく、学校生活や社会で凝り固まってしまう思考を解きほぐし、表現を通して「自分だけの創造的な仕事/生き方を作っていく」ための種を育てる場所。

コロナ禍の影響もあり、学校に通えなくなったユースも参加している。この塾は、どんな卒業生を生み出し、社会や美術の世界にどんな“風穴”が開けられるのだろうか……。新美塾!は第2期が終了し3期目に突入した。目を輝かせたユースたちとの半年が、再び始まる。

新美塾の特徴

- **半年間のプログラムである** これまでのワークショップ(WS)の多くが、数時間程度で1回だけ、長くても3~5日程度。それに対して、新美塾!は1ヶ月に宿題が2回、オンラインが2回、オフライン集合が1回。それを6ヶ月間継続する。さらに日常的にラジオを作ったりグループラインで会話したり。参加者の中で“日常化”するようにデザインしている。
- **13歳~18歳(中高生)を対象としている** これまでのWSは小学生や大人が対象のものが多く、この年代のみを対象にしたものは多くない。さらに、中1から高3は学年も成長もかなりの差があるが、同じ課題を行う。
- **10人~15人程度が参加する** 新美塾!は塾長やユース同士が全員の名前や個性を覚えられる人数にしている。
- **美術館の外にも出ていく** オンライン会とオフ会の二つの集会有る。2週間に1回のオンライン会だけでなく、世界のどこからでも参加できるが、「1ヶ月に1回あるオフ会に参加できる」ことが応募条件になっていて、オフ会があるとユースは東京近郊から一ヶ所に集まる(1期生には四国から高速バスでオフ会に参加する強者もいた)。オフ会の場所は、新美だけではなく、いろいろな場所に集まり、いろいろな経験をする。新美主催のプロジェクトだけでなく、あまり新美という場所にとらわれず自由に活動する。
- **一人のアーティストと美術館とで作る** 「学校」や「塾」を名乗るWSやイベントのほとんどが、いろいろな種類の複数の表現者を呼んで組み合わせたものである。現代美術と建築家と音楽家、など。異なる講師によるWSやトーク、作品で各回が構成されている。新美塾!の場合は、最初から最後まで同じ一人のアーティストが美術館と内容を作る。卒業式では参加者もスタッフも泣いてしまうほど、関係性は密だ。
- **卒業生たちとの関係** 新美塾!の卒業生の中には、新美に展示会を見に来るようになった子も少なくない。彼らが美術館に来るときはスタッフがメッセージが届き、僕らへその子の今が共有される。さらに、直島の下道家にも家族で遊びにきたり、進路や美術に関する疑問や相談などにのることもある。あとはインターン的に働きたいとの声が多く寄せられるのでそこも検討していたり、交流は続くので、本当に学校のような感じ。



下道基行 Motoyuki SHITAMICHI

1978年岡山生まれ。2001年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。日本国内の戦争の遺構の現状を調査する「戦争のかたち」、祖父の遺した絵画と記憶を追う「日曜画家」、日本の国境の外側に残された日本の植民/侵略の遺構をさがす「torii」など、展示会や書籍で発表を続けている。フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真やイベント、インタビューなどの手法によって編集することで視覚化する。

<http://m-shitamichi.com>



新美塾!道中

宮下 咲

(国立新美術館 特定研究員)



私は2期生の募集期間に当館に着任し、新美塾!に飛び込むことになった。初めて参加する会議の前に、室長から塾生と同じモレスキンの手帳(p15参照)を渡された。会議資料を見ると、第2期のスケジュールはびっしり書かれていたが、実は何も決定してはいないのだという。第1期の活動記録として、1時間以上におよぶオンライン会の録画が20本以上もある。下道さんと室長達は楽しそうに1期生をあだ名で呼び、近況まで知っている様子だ。前職の美術館で経験してきたいずれの教育普及プログラムとも異なる景色だった。

新美塾!では、塾生に投げかける問いを立てるにあたり、出題側が模範回答や目標を設定することは無い。勿論、彼らが能動的に取り組めるようなシステム作り、到達して欲しい段階の想定はあるが、彼らの反応を見てから次に着実に響く問いを考えるので、方向性も早々には決められない。新美塾!における「問い」とはミッションやオフ会(p12,13参照)で訪ねる人や場所のことを指す。第1期で考案した内容をそのまま第2期で行うことはまず無く、同じアイデアでも、そのミッションが2期生に投げかけられた場合にはどんな出来事になるかを慎重に考慮して、投じるタイミングを見定めている。「去年はこうだった」という経験は、かえって下道さんを苦しめたようだった。オフ会中に塾生が「ソッている」ことに気付いた下道さんが、「これも見よう!」とその場で鑑賞する展覧会を追加する場面もあった。

美大におけるファイン・アート専攻の教育が、新美塾!と似ているのではないかと思ったこともある。私自身が経験した演習においては、「ドローイング」——文字通り「描くこと」に限らず、文章表現やスナップ写真のファイリングに至るまで、着地点を決めない創作行為の総称としてしばしば使われた——や、リサーチ——学外のアート普及施設以外の場所(例えば、国会議事堂、奥多摩のダム、工場夜景見学等)への訪問——などを作品制作前のアイズプレイクとして行う。ただ、それらは、学生が自身の内面の特性を把握する手段を既に備えている点と、最終的な作品化が前提とされる点で、新美塾!とは大きく異なる。ミッションやオフ会で行うことは、その手段となる感覚器官の育成にあたり、アウトプットを形にすることも急がない。例えば、「毎日、見つけた雲か石コロか葉っぱを1つずつ描く」というミッション(p30参照)で、何も描けなかった子が居ても、その子には筆が進まなかっただけの理由があり、その経験は描くこと以上にその子を育てたかもしれないのだ。

そして何より、「塾」とは言うものの、新美塾!は美大合格やアーティストなどの進路指導の場では決していない。塾生たちに将来の夢を尋ねると、「世界一周する」、「調理師になる」、「なにか表現に携わりたい」、「建築を学びたい」など様々。それに対し下道塾長は、夢までの道のりの途中で充実した寄り道ができるような助言をする。そして必ず「やんなくても良いよ」と言い添える。

近年、「アートで生きる力を育てる」といったような言葉をよく耳にするが、アウトプットの技術やコミュニケーション能力の向上を助ける社会生活に役立つツールとしてアートが捉えられがちではないだろうか。ユースがこの時期に学ぶべきはそういった能力ではない、というのが新美塾!での考えだ。勿論、吸収力のあるユースは驚くべき速さでそれらを身に付けるが、大人になってからでも時間をかければ習得は可能なものだ。新美塾!では、自身を取り巻く世界を捉える感覚器官を開いたまま生きていく術が、自然と訓練されていったのではないかと思う。これは絶対音感が備わる期間が幼少期に限られていることと似ていて、10代という時間を過ぎるとなかなか難しくなってくる。

ユース対象のプログラムの成果がいつどのように現れるのかということについては、事業の結果を評価することを求められる美術館のエducーターたちの間では常々議題に挙がる。この活動が彼らの人生の何に作用したかを知るには、彼らがある一定量のインプットをやり終えるのを待つ必要があり、おそらく数年では済まない。絶対音感を以て何を成し得るかは、世界に溢れる多くの音を聴く経験を積んでからだろう。

私のような美大卒・美術館勤務の人々は、「アートってなんの役に立つの?」と尋ねられた経験が多くあることだろう。今、私の手元には、何度も反故になったスケジュール表と、没になったミッションのアイデアの数々、オンライン会やオフ会での下道さんと塾生達の一言一句を書き溜めて膨らんだ、モレスキンの手帳がある。この、他のどんな教育とも異なる新しい表現の塾の記録のなかに、その問いの答えがあるような気がしている。

至急
重要

NACT YOUTH PROJECT
2023

美術館に生まれた
新しい「表現の学び舎」

2期生
募集

国立

新美塾!

「新美塾!」は、国立新美術館が開いた、13~18歳のための
「表現」を学ぶ塾。この新しい学び舎の塾長は、2023年も...

2期目!
下道基行!!

直島(香川県)に住むアーティスト!

してみちもとゆき!

なんか気になる!
という人はこちらの
ウェブサイトを見て
みてください。



または「国立新美塾」で検索!

いよいよ第2期! 申込は5/28まで

参加者ポシュウ!

対象 13~18歳

定員 10名

主催者 → 新国立新美術館

THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

2023年7月~12月開塾!!

みんなで美術館のウラカワ見たり、
アーティストのスタジオ行ったり
ミッションが送られてきたり、
いろいろします。

「好き」と「仕事」の関係性



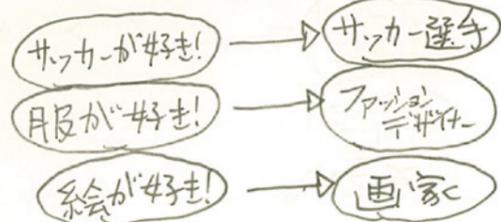
新美塾!の塾生が、「美術や絵は好きだけど、画家やイラストレーターになりたい訳じゃない…」と話していた。学校での勉強や得意な科目が社会に出た時にどのように仕事に結びついているかは、あまりにも想像しにくい。中学校や高校で教わる科目は10個程度かもしれないが、社会の仕事はある意味で無限に広がっている。「絵が得意な人の職業は画家」のようにすぐにつなげて考えてしまうけど、一つの「得意」や「好き」ではなく、「スポーツが得意」+「建築が好き」みたいに、いろんな「得意」や「好き」が合わさって、その人だけの仕事の個性になっていく。

新美塾!は、絵の好きな子を集めて画家や美術作家を育てようと思っはてはない。それぞれ自分だけのクリエイティブな仕事を見つけられるような、学校で少し硬くなった土壌を柔らかくして、新しい種を植えたいと思っている。(下道)



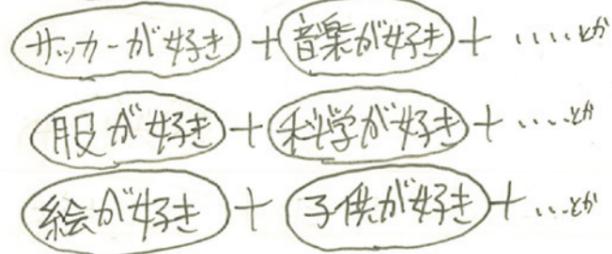
「好きなことを仕事にしよう!」

と...言うけど.....



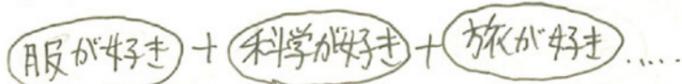
こういう「プレーヤー」になるのは必しにぞり!!

みたいに...小学生だと夢を書きかもしれない...
 でも、実は仕事はもっともといろんな方向に広がってて、
 その人その人で新しい仕事はあるのでは?



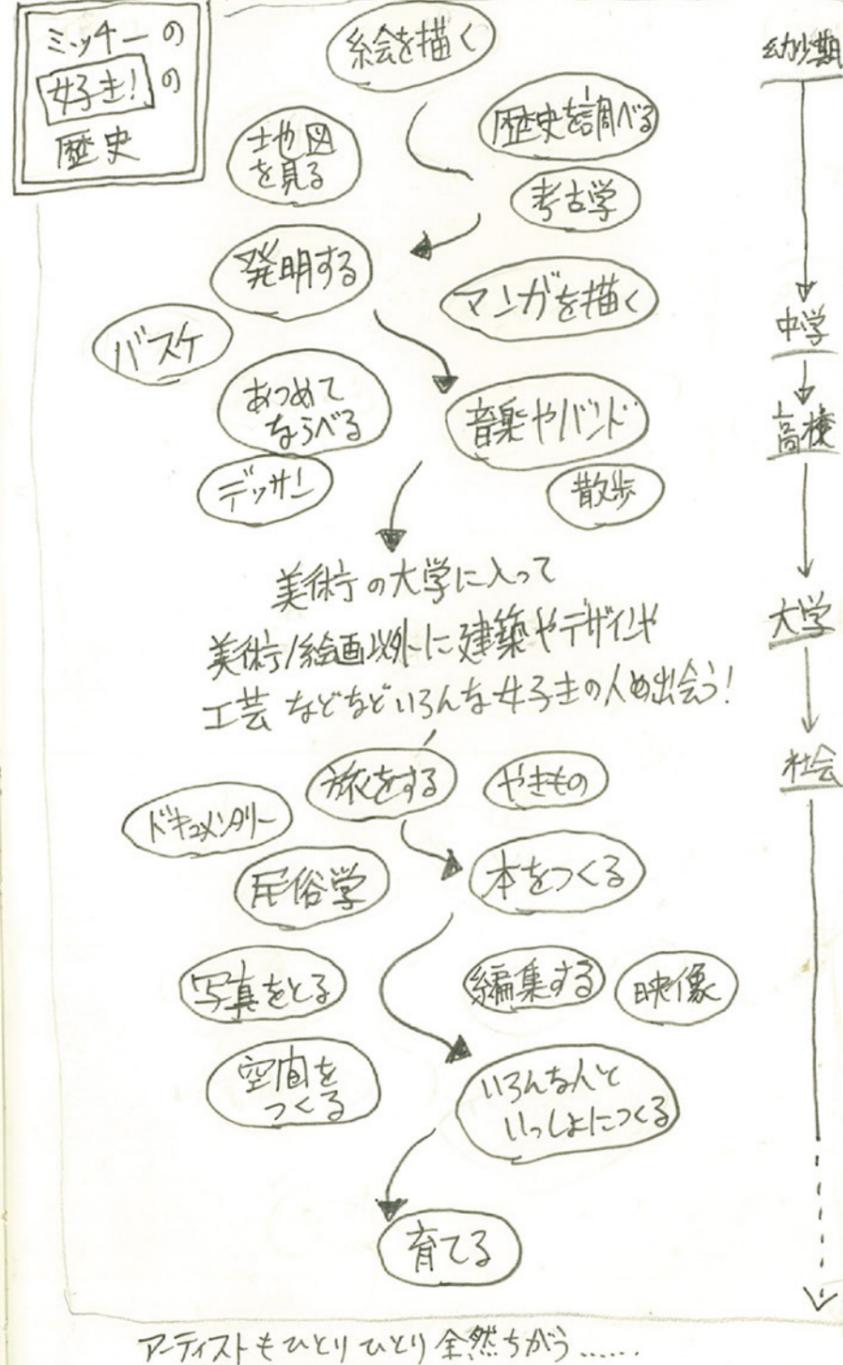
その人だけの「好き」の組み合わせが
 できあがる...

サッカーや服や絵などが好きな人はたくさんいる...
 だけど、それに「別の好き!」がたされていくと...
 自分だけの仕事になっていくはず!!
 例えは.....



↓
 世界中の布の染めや織りを調べて、
 新しい布をつくる仕事...とか?

つまり... いろんな興味や好きを
 いろんな方向にたくさん伸ばすのが大切!!
 (技術はあとでも大丈夫!!)



塾長ノートより

TIMELINE

全体の流れと 複数のメディアの設計

7 Jul.

8 Aug.

9 Sep.

10 Oct.

11 Nov.

12 Dec.

集会

7月2日

新美塾01 〈第1回オフ会〉
『新美だよ!全員集合!』

第2期生入塾
へんな自己紹介
人生グラフなど

7月19日

新美塾02 オンライン講義
『家の中にある思い出や物語があるものを持ってきて紹介する』

8月9日

新美塾03 オンライン講義
『ミッション#01, #02について』

8月23日

新美塾04 オンライン講義
『ミッション#03について』

8月27日

新美塾05 〈第2回オフ会〉
『西大井だよ!全員集合!』
能作文徳氏「西大井のあな」スタジオビジット
大井競馬場フリーマーケット

9月13日

新美塾06 オンライン講義
『ミッション#04について』

10月1日

新美塾07 〈第3回オフ会〉
『八重洲だよ!全員集合!』
「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×山口晃 ここへきて やむに止まれぬ サンサシオン」アーティゾン美術館
インターメディアテク

10月11日

新美塾08 オンライン講義
『ミッション#05について』

10月29日

新美塾09 〈第4回オフ会〉
『大宮だよ!全員集合!』
さいたま国際芸術祭2023

11月1日

新美塾10 オンライン講義
『ミッション#06について』

11月19日

新美塾11 〈第5回オフ会〉
『六本木だよ!全員集合!』
-森美術館開館20周年記念展「私たちのエコロジー:地球という惑星を生きるために」
-「大巻伸嗣 Interface of Being 真空のゆらぎ」「イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル」「日展」国立新美術館

11月22日

新美塾12 オンライン講義
『ミッション#07-1, #7-2について』

12月6日

新美塾13 オンライン講義
『ミッション#08-2について』

12月16日/17日

新美塾14 〈第6回オフ会〉
オトショップ開店
卒業式
国立新美術館

12月5日

ミッション#08-1
『作品と言葉と私 by さら (+みっちー)』
衝撃を受けたり感銘を受けた表現/作品。自分がいつも心にとどめている言葉。自分の影響を受けた言葉や考え方。それをみんなに共有してください。

ミッション#08-2

『新美に2日間だけのお店を作る!? 何をいくらで販売する!?』
国立新美術館1階に2日限りのお店を作りみんなで何かを販売してみたいです。今までみたこともないお店を考えませんか?何をいくらで売りますか?値段も自由に考えましょう。

12月22日

ミッション#09
『新美塾の半年間』
新美塾はどうでしたか?みっちーやスタッフに感想を伝えてください。

ミッション

7月7日

ミッション#01
『日常の定点観測』
カメラで毎日4枚づつ7日間、写真を撮ってください。

7月25日

ミッション#02
『日常の定点観測』
1本目でつかんだ感覚を生かして2本目、もう一週間!カメラで毎日4枚づつ7日間、写真を撮ってください。あと…もう一つ…大きめの図書館で写真家の写真集を探して見てみよう!

8月10日

ミッション#03
『もう1本、自分の指を作ろう!』
石粉粘土を使って、自分の指をガン見して自分の指そっくりなレプリカを作る。さらに写真を撮ってラインで共有してください。

8月31日

ミッション#04
『何かを失うことで生まれること』
まず、自宅の中で自分がその何かを失う/無くすことを想像/妄想してみてください。その何かの喪失によって、何が発生するでしょうか?その妄想をいくつか文章にして手帳に書いてみてください。

9月26日

ミッション#05
『雲と石コロ、もしくは葉っぱ』
付録のペンで手帳に1日1枚以上、少しでも良いので雲の形を追いながらペンで描いてみてください。

10月18日

ミッション#06
『ミッションを考えてください!』
これまでのミッションを参考にしつつ、自分でミッションを考えてください。

11月10日

ミッション#07-1
『物々交換』by あおい
なんでもよいので、あなたの持っている物や拾った物を誰かと物々交換してみてください。

ミッション07-2

『マニアック選手権』by あいこ
世の中に共感する人は少ない 自分にしか理解できないかもしれない そんな自分だけの好きなものを見つけてください。

ラジオ

毎回一人がゲスト。学校や日常の楽しかったことや悩みなどを話し、音楽をかける。11人のメンバーしか聞けない交換日記的ラジオ。マイクロコミュニティメディア。

7月14日

ラジオ#01
ゲスト:あおい

7月28日

ラジオ#03
ゲスト:いろは

8月4日

ラジオ#04
ゲスト:すず

8月18日

ラジオ#06
ゲスト:りのん

9月1日

ラジオ#08
ゲスト:さき

9月15日

ラジオ#10
ゲスト:ことら

10月5日

ラジオ#12
MC:あおい、おきっちゃん
「ねえちょっと聞いて! うちのコーヒーハウス」第1回

11月7日

ラジオ#13
MC:あおい、おきっちゃん
「ねえちょっと聞いて! うちのコーヒーハウス」第2回

グループLINE

全員で日常的な会話をするメディア。

手帳

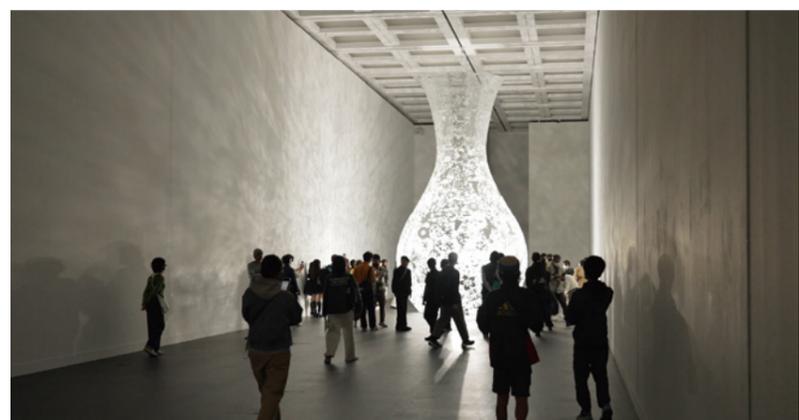
好きに使える自分だけのアナログの記録メディア。日記帳でありスケッチブック。オフ会時に塾長がチェック。

2024年2月21日~3月25日

NACT YOUTH PROJECT 新美塾!
2022 - 2023 2年間の軌跡

国立新美術館 1階ロビーにて
新美塾!の2年間で振り返る展示を開催

集会



定期的にみんなで集合する。まず、Zoomなどを使用し、『ミッション』をみんなで発表しあう《オンライン会》。さらに、街に出て表現者に会いに行くスタジオビジットや展覧会を見に行くなど、実際に集まる《オフ会》がある。《オンライン会》は全8回(1回/2週間)、《オフ会》は全6回(約1回/1ヶ月)行われた。《オフ会》は現地集会で毎回場所が変わる遠足/フィールドワークみたいな会。第2期では展覧会は国立新美術館、アーティゾン美術館、さいたま国際芸術祭2023、森美術館で鑑賞し感想を共有した。スタジオビジットでは建築家・能作文徳さんの事務所を見学させてもらった。(オフ会の内容についてはP24,25,28,29,34,35,40,41,50-52)(下道)

ミッション



2週間に1回、美術館から茶封筒に入った奇妙な通信教育キットが届く。開封すると、中には『ミッション』と呼んでいる宿題(時々ミッションに使う道具も)と、塾長からのお便りが入っている。ミッションは塾長からの指令であり課題であるが、内容は学校のそれとは大きく異なる。(ミッションの詳しい内容についてはp16~)

『ミッション』は塾のメインコンテンツ。参加者の部活動や勉強がどのくらい忙しかなども聞きながら、2週に1回、塾長とスタッフが一緒に考えたミッションを郵送した。何かを作る課題ではなく、自分達の日常を別の角度から見ること主眼を置いた課題にした。

オンライン会で集合して、塾生たちはミッションに対するそれぞれの取り組みや作ったものを見せて感想を話し、参加するみんなでディスカッションを行う。毎回いろんな塾生の新たな特技や可能性が浮かび上がり、それぞれが全く別の世界観を生きていることや別の表現に興味を持っていること、さらに自分自身も特別であることが浮かび上がる体験になった。ミッションは全9回行われた。(下道)



ラジオ

グループLINE

ラジオは週1回配信。塾長がMCを担当し、毎回1名の参加者がゲスト出演して、学校でのことや新美塾!のこと、さらにみんなに聞いてほしいお気に入りの音楽を流すラジオ。配信はグループLINEのみ。つまり参加者だけで共有されるラジオ。オンライン会やオフ会で集まっても、参加者同士が横に繋がりが関係性を生む空間 / 装置が必要。そこで、最初は参加者間をめぐる交換日記のようなものを検討したが、個人情報の取り扱いの問題もあり、「ラジオ」の形態をとることになった。

二週目に入ると、ラジオMCも参加者が行い参加者からお悩み相談を募集するコーナーまで出来た。それぞれのことを知り、次のオフライン会に繋いでいくきっかけにはなったようだ。そして何より、自分の時間で聴くラジオによって、新美塾!という仮想空間のメンバーである一体感を深めることになった。(下道)

2023年10月5日(木)

《新美塾!ラジオ》が3ヶ月かけてみんなを一周してひとまず終了。MCはみっちー&宮下。それで、このLINEを使い、新しいラジオ的なことをやってみようというアイデアになり、タイトルが《うちのコーヒーハウス》となり、まず、そのパイロット版/実験版を昨夜録音してみました。で、今夜19時にみんなと共有します。内容は聞いてのお楽しみです。

新美塾!ラジオ
ねえちょっと聞いて!うちのコーヒーハウス 第1回

新美塾!ラジオ2023
うちのコーヒーハウス 第1回.m4a
有効期間: ~2023年10月12日 19:00
サイズ: 21 MB

「ねえちょっと聞いてうちのコーヒーハウス」では、皆さんから寄せられたお悩み然りグチ然り、「ちょっと誰かに聞いて欲しい」といったお便りについてワタクシあやねとおおいの2人であーでもないこーでもない 話の横道にそれながら、解決してこう! というコーナーです!

初回!! ということで、緊張しながらの撮影ではあったのですが、あたたかい"耳"で聞いてもらえるとうれしいです!

みんなで作っていくコーナーにしたいなあ と私自身勝手に思っているので、意見・感想等あれば是非!

相談もどんどんくださいー!!

直島島民、相談して良かったです。処方箋として選んでくれる音楽も絶妙でした。。 みんなも、相談や疑問や悩みやらを、ふたりに投げてみてください!

2023年9月8日(金)

新美塾ラジオ!
第9回のゲストはせんた!

①8月のオフ会に参加して
②先生に誘われて陸上大会に出場
③映画が好き 洋楽が好き
④おじいちゃんが建てた家で

ぜひ聞いてくださいね~!

ラジオ第4回! ゲストはず~!

今回のトピックは...
①夏休みの美術部の活動
②写真のミッションに取り組んでみて
③電子工作や発明の塾に行ってみて
④塾長初めてのキンプリ(未知との遭遇)

聴いてね~!

新美塾!ラジオ 2023 第4回 はず.m4a
有効期間: ~8/11 18:20
サイズ: 54.27 MB

@感星 写ルンです届きました! ありがとう!

こっちでも聴けます~

次のゲストも募集してます。。。誰かー! 挙手!

次っていつですか?

次の金曜日までに空いてる時間で。

じゃあ、やりたいです! お願いします

よし! 少し日程を話し合しましょう!

了 解

今回は募集1人だけですか??

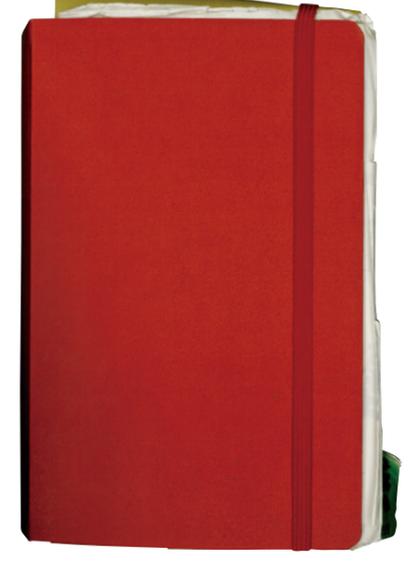
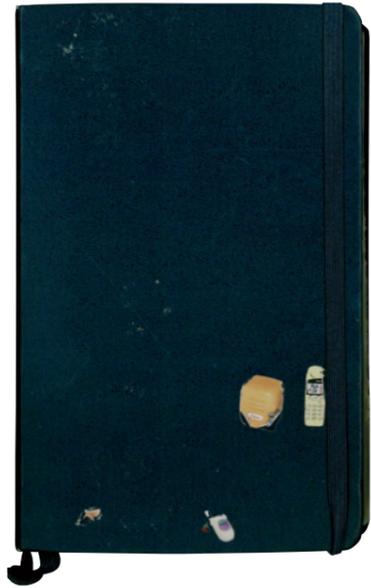
いや2.3人だよ。ウェルカム!

ちなみに、10日は空いてる時間ある?

大丈夫です

手帳

新美塾!の半年間、塾生たちも、塾長と同じモレスキンの手帳を使うことにした。写真を貼り、メモして、ドローイングを描き、スケジュールを書く。その手帳はそれぞれの形でポロポロになり味わいが出てくる。捨てられない自分だけの手帳になるだろうし、さらに何年後かにふとこの手帳を開くことがあったら、10代の自分に出会えるかもしれない。僕がモレスキンの手帳を使い始めたのは、もう10年以上前、フランスに1年間すみながらヨーロッパ中を放した時だ。それ以来1年に1冊、同じ手帳を買って、使い終わったら保存箱の中に入れてある。同じ手帳が別の時間や空間の中でポロポロになって、箱の中でそれぞれ個性的な存在感を放っている。近年、写真もメモもスケジュールもスマホに頼りがちだ。だからこそ、本気で手帳を使う経験は何か彼らの力になるのではないか。(下道)



NACT YOUTH PROJECT
2023

新美塾!

ミッション #01

23 07 .07

NACT YOUTH PROJECT
新美塾!



ミッション #01

『日常の定点観測』

カメラで毎日4枚ずつ7日間、写真を撮ってください。

撮る人と撮られる人の
関係性が伝わってる

- ・ミッションを開封したら、次の日からすぐに、送られてきたカメラで撮影を始めること。
- ・1日4枚のうち、1枚目は「毎日同じ人物」を2枚目は「毎日同じ風景」を撮ってください。あとの2枚は自由に撮って良いです。同じ人物や風景を撮影できない日はほかを写して良い。
- ・「人物」は家族や友人。「風景」は、部屋の窓から見える風景や近所や学校など、選んでください。
- ・【定点観測 (ていてんかんそく)】とは= 特定の場所から動かずに、あるいは場所を限定して物事を観察したり記録したりすること。
- ・撮影された写真は新美塾内でのみ共有するので、家族や友人をこっそり撮影するのもありだと思います。怒られない範囲で挑戦してみてください。
- ・なるべくカメラはバックに入れて常に持ち歩くこと。(ふとした瞬間に撮れます。)
- ・7日間の撮影が終了したら、すぐにカメラを返信用封筒に入れて送り返してください。こちらですぐに現像して、また送り返します。
- ・youtube にあったカメラの使い方動画を参考まで。→→→

木の上から
撮ったメンバーも
いました!

普段は見えていなかったものが
写真を通して見えてくる!

意識的に撮ろうと
していないモノも
写り込んでいる...



お便り 2023年7月号

こんにちは。ついに始まりでしたね、新美塾!。半年間、よろしくお願ひします。参加する中学1年生から高校3年生までというのは結構な差がありますね。しかも、それぞれ色々な興味をもつ人が集まっています。この新美塾で体験できるのは、良い点数を取るとか、絵をうまく描くとか、そういう能力ではありません。さらに同じ趣味の子を見つけるサークル活動でもありません。では何か……、それはやってみないと分かりません。

先日第1回のオフ会/集会は、みんなで美術館に集まって、速回りな妙な自己紹介をしましたが、いかがだったでしょうか? 他人を観察して、この人はどんな人なのだろう…と想像して、それを匿名で発表してみる体験。あまりやったことがない遊びのような体験だったのではないのでしょうか。「自分というのは、“自分の中にあるもの”なのだろうか? 自分の外側にあるのだろうか?」そんな疑問を考える一つとしてやってみようと思いました。自分が考える自分が本当の自分なののでしょうか?

みんなの手元には「モレスキンの手帳」があると思います。この手帳は長い歴史があって、あのピカソやゴッホも愛用していた物。僕も10年以上、この手帳を使っています。すごくしっかりしているし使いやすいので、おすすめです。今はなんでもスマホでできてしまう時代で、メモスケジュールもアドレス帳もアイデアもスクショも複写も全てスマホ。でも、新美塾では、少しアナログの感覚も大切にしたいなあと考えているので、新美塾の半年間だけ、この「モレスキンの手帳」をオフラインの「紙スマホ」だと思って、どんどん使って(書いたり貼ったり)自分だけの物にしてください。きっと何かの力になるはず。まずは、このミッションの用紙も毎回折りたんで貼ってみよう。チケットやレシート切り抜きを貼ってみたり、アイデアを描いたり、生き物や風景や何かをスケッチをしてみたり、日記を描いてみたり、スケジュールを描いたりして、半年で使い切る気持ちで使いましょ。そして、オフ会の時には持ってきて、塾長に見せてください。

さて、第1回のミッションは、「日常の定点観測」です。フィルムカメラで、自分の日常を撮影するミッションです。送られてきたフィルムカメラはスマホのようにうまく写りません。この使いにくいカメラを手に自分の日常と向き合ってみましょう!

35mmフィルムのインスタントカメラ



・塾長の手帳の作り方を
最初に読み、自分だけの
手帳を作る参考として。



ミッション#02

『日常の定点観測』

1本目でつかんだ感覚を生かして2本目、もう一週間！
カメラで毎日4枚ずつ7日間、写真を撮ってください。

あと…もう一つ…

大きめの図書館で写真家の写真集を探して見てみよう！

おすすめの本（探してみよう！）

- ホンマタカシ「TOKYO SUBURBIA 東京郊外」
- 川内倫子（かわうちりんこ）「うたたね」
- 長島有里枝（ながしまゆりえ）「PASTIME PARADISE」
- 荒木経惟（あらかきのぶよし）「センチメンタルな旅・冬の旅」
- 川島小鳥（かわしまことり）「未来ちゃん」「明星」
- 他にも、●中平拓馬（なかひらたくま）●植田正治（うえだしょうじ）
- 須田一政（すだいつせい）●濱谷浩（はまやひろし） ●古屋誠一（ふるやせいいち）

まあこれを参考にしつつ、日本にはもっと色々写真家はいるので、
図書館の写真集コーナーをみてみよう。
図書館のサイトで先に本を検索してみても良いね。

お便り 2023年7月後半号

さて、ミッション#01『日常の定点観測』はどうでしたか？ 急にフィルムカメラが送られてきてびっくりしましたか？ それとも使ったことがありましたか？ フィルムカメラの面白いところは、すぐに画像が見れないところかもしれません。タイムカプセルのよう。二十年後に開封するタイムカプセルではなく、二週間後に開封するタイムカプセルのような。さらに、フィルムカメラには撮った瞬間に「いいのが撮れたかも！」って“手応え”があると、いい写真が写っていることが多い。

この課題でやってみたかったのは、日常はあなただけのものということをもう一度認識することです。家族と一緒にいる時間や空間も、友人と一緒にいる時間や空間も、あなたがみている風景はあなたにしか見えていない、あなただけのものなのです。で、その“見方”や“眼差し”があなたの日常を作っています。ささいな日常の美しさや面白さを感じて発見して撮影してみてください。

とても創造性豊かなスペインの建築家アントニオ・ガウディは「世の中に新しい創造などない。あるのはただ発見である。」と話しています。全ての表現は自分の身の回りの観察から始まります。

カメラは人にうらやましがられる自慢の写真を撮るためにあるのではなく、自分自身を浮き彫りにして発見するアイテムでもあるのだと僕は思います。おすすめの写真集もぜひ探してみてください。

2本目も楽しんでくださいね。

・映画『SMOKE スモーク』
ミッチーが高校生の時にみて、今でも思い出す作品。 今回の定点観測のミッションのイメージはこの映画からきています。原作のボールオースターも面白いですよ。 映画は有料ですが、よければ、一人でも家族とでもみてください。

・『ははのふた』下道基行
みっちーの作品の一つ。定点観測の作品。



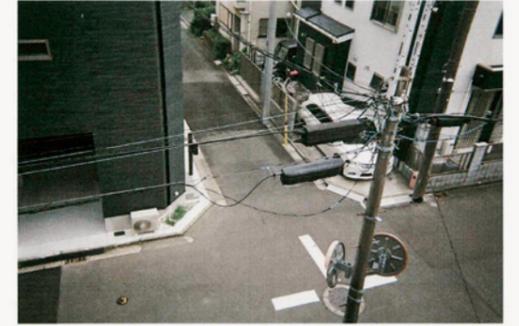
ミッション#01 『日常の定点観測』

カメラで毎日4枚ずつ7日間、写真を撮ってください。

ユースのノートより



ミッション#01で塾生が撮った写真の中から下道塾長が一部を抜粋して並べ、写真集のような小冊子を作った。彼らしか写せない家族の写真も多かった（がここでは掲載しない）。小冊子はミッション#02と共に塾生に郵送された。



2本目のカメラを撮る前に。

先にカメラを送ってくれてプリントができたメンバーの写真を、塾長ミッチーが自分勝手に2枚ずつ組み合わせて、並べてみました。どうですか？

あえて、作者の名前は出ませんでした。

「これは誰の写真！」とかみたいに、作者当ての答え合わせではなく、誰かの見知らぬ風景の写真から何を感じるかを大切にみてみてください。

自分が撮影した写真のある人はどうですか？ 他人に並べられると見え方が変わるよね。まるで他の誰かの日常みたいじゃない？ 自分の無意識の興味とかも浮かび上がってこない？

恥ずかしがらずに、カメラを手に、どんどん自分の日常を深く観察してみよう。人のふとした瞬間の表情や姿、特別なイベントではなくて見慣れた風景の美しさや新しい発見、楽しんでみてね。

他の人の日常の眼差しはどう？

自分の眼差しと全然違う？

どこが違う？ 面白い？

さ、2本目のカメラももっと楽しみましょう。

塾長ミッチー



ミッション#03

『もう1本、自分の指を作ろう!』

石粉粘土を使って、自分の指をガン見して
 自分の指そっくりなレプリカを作る。
 さらに、写真を撮ってラインで共有してください。

*いわゆる
模刻*

【作り方】

- ①どの指か自分の指を決めます。シワや曲がり方など観察。
- ②指をよく見ながら粘土をこねて指の形を作ります。
- ③カッターナイフなどを使ってシワなども。
- ④粘土を乾燥させて、さらに細部を削ってさらにリアルにする。
- ⑤指の色を観察。絵の具で着色し、完成する。
これが多分構案だった...
- ⑥自分の手に付けてみたりして、写真を撮ってラインに共有。(8/21 締切)

*並べて見るとどっくり!
それぞれ個性があります*

お便り 2023年8月前半号

さて、フィルムカメラのミッションは楽しかったですか？
 今回の写真のミッションは、写真をうまく撮影することではなく、スマホでSNSにあげるような「ばえ写真」とも全然違う、カメラという「記憶装置」「日常観察装置」の面白さに気がついたのではないのでしょうか？
 「ばえ写真」は撮影者の伝えたいこと／見せたいものを上手く見せる写真が多いですが、今回の写真は自分の日常と出逢い直す体験のような感じだったかもしれません。
 僕自身は仕事のキャリアを「写真家」としてスタートさせていたので、20代の頃はよく図書館に通って写真集をたくさん見漁っていました。是非、みんなも近所の図書館に行って、(涼しいし無料だし!)写真のプロたちの撮影する写真集を見てみてください。ミッションを終えたみんなにおすすめします。あと、そうだ、言うのを忘れましたが、撮影した写真は自分のモレスキンノートに貼ってみてください。僕が2枚の写真と並べていたように、組み合わせを考えてやっていたように。ここまでがミッションです。ノートにミッションの用紙も貼ってね。
 さてさて、次のミッションは、粘土で「6本目の指を作る」というものです。シワや爪の形や色や、自分だけの指を観察して自分だけの指を作り上げてください。色も「肌色」を一色で塗るのではなく、自分だけの色に挑戦してね。集中すれば、最短で1日目1時間、乾燥させて2日目1時間くらいでできるのではないのでしょうか。参考までに「石粉粘土」と検索して作り方を 유튜브 でみてみてください。出来上がったら、新美塾!のグループラインに写真を共有してください。もちろん。こだわりまくっても、何本も作ってもいいですよー!

ミッション#03 『もう1本、自分の指を作ろう!』



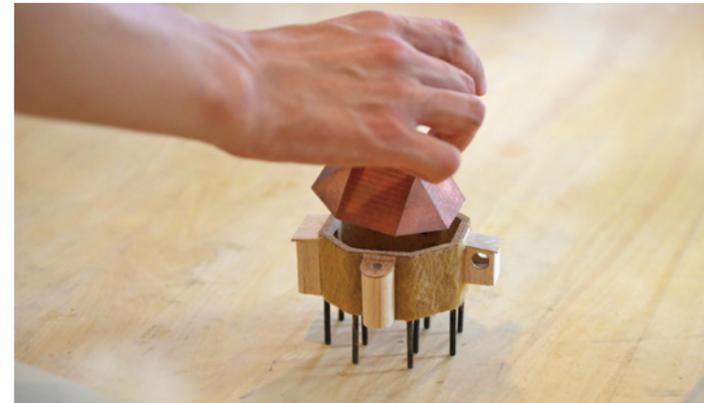


能作文徳 (のうさくふみのり)

1982年富山県生まれ、2010年に能作文徳建築設計事務所設立、2024年より東京工業大学准教授。

2017年から自宅兼事務所の「西大井のあな」に住みながらパートナーの常山未央と共に「完成のない家」を合言葉に改造し続けている。そこで得られた気づきを設計に応用したり、プロジェクトで得られた気づきを家で試したりして、実験しながらアイデアを成長させている。

<http://fuminori-nousaku.site>



西大井だよ!全員集合!

8月27日(日)

10:00集合、15:00解散

-能作文徳建築設計事務所「西大井のあな」
-大井競馬場フリーマーケット

建築家の能作文徳さんの自宅兼事務所「西大井のあな」を訪ねた。能作さんが住みながら手を加え、形を変えていく、まるで生きているみたいな建物だった。その後、大井競馬場で開催されていたフリーマーケットへ。「これって売り物?」と思うような品々、大きな声で遠くから話しかけてくる店主…なんでもありな雰囲気、外国の市場に来たみたいだった。下道塾長の言葉を借りると、「都市の中の野生」を感じる1日になった。(宮下)



箸、フォーク、スプーンをなくしてみる...
箸が食べられないようになる?
新しい道具を作るようにする?

ミッション #04

• コップを無くしてみる
↳ おわんで飲むのどうかも?
↳ おわんで飲むのコースは
どんな味だろう?

『何かを失うことで生まれること』

まず、自宅の中で自分が

何かを失う/無くすことを想像/妄想してみてください。

その何かの喪失によって、何が発生するでしょうか?

その妄想をいくつか文章にして手帳に書いてみてください。

もしかするとその妄想は小説のように発展するかもしれません。

さらに逆に、できそうな人は

実際に自宅の中でいつもの位置からこっそり、
何かを無くしてみてください。

そこで家族に何が発生するかを観察してみてください。

次のオンラインでそれぞれ発表しましょう。

※家族や自分や他人を傷つけることは絶対にしないでね!

お便り 2023年8月後半号

オフ会「西大井だよ! 全員集合!」はどうでしたか?

建築家能作さんの自宅/作品を見せていただき建築の仕事の話を聞きました。彼は建築家として家を建てるのではなく、自分で新しくも古くもない家を購入して、その家に穴を開けたり、壁や屋根を剥がしたり、そこに少し加えたりしながら、生活をしていました。これは「足し算の創造」ではなく、「引き算の創造」と言えるかもしれません。この家は床の一部を喪失したことで、空気や光や子供の声が漏れてくる家になっていました。(それを今回のミッションのアイデアにしてみました。みんなは自宅の何を引き算してみますか?)
そのあとは、大井競馬場のフリーマーケットに行きました。ゴミの10円均一ショップは衝撃的でしたね。せんたは10円で音を、こからは100円でVRを、あおいは自分だけのTシャツを、手に入れました。変なおっさんに絡まれたり、東京の町の中にもまだこういうジャングルのような「野生」的な場所があったんですね。僕がオフ会でみんなとやってみたいのは、「行ったことがない場所に行く」ことや「触れたことのない感覚に触れる」ことです。決して誰か一人の会いたい人に会いに行くのではなく、新しい興味が生まれるような体験を共有したい。今回のオフ会の隠れたテーマは、「都市のワイルド/野生」な部分に触れ新しい「エコロジー/生態環境」を考えるのがテーマだったのかもしれませんが。能作さんが話していたのは、「家の壁や屋根の中が見えない状態ではなく、見えるようにする」と話していました。都市で生活していると、裏に隠れているものが見えなくなっています。見なくてもいいようになっています。将来、表現に関わる仕事をするとき、既存概念(目の前にある)「当たり前」や常識)を疑うことはとても大切なことだと思います。新美塾は、技術や知識を上げるトレーニングはしません。逆にやったことや考えたことのないことと出会う体験を作りたいと思っています。新しい自分との出会いを楽しみましょう!

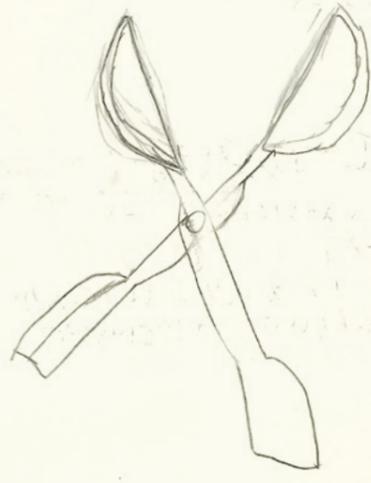


8/27 (日) オフ会
② 建築家のところに おどかけ
& テリーマーケット



9/12 (水) 新美塾
② 家の中が無くるとどうなる?
おは、部屋の照明が苦手なので
あえて3日間照明とついでみる。
→ 得意なことをほり下げる
のでなく、苦手なことを
取り上げる。
ある... 服が無くるとどうなる?
服を2つほどに減らす理由。
① 温度 ② 気持ち ③ おしゃれ
↓
他の素材で ④ 文化 ⑤ 靴や3つセ
作るとは ⑥ 取り出し ⑦ 1:1:1:1
の2:1:1:1
• よく使う Tシャツ
と無くす
• 道が よく使うものを
無くす

スケッチ



ミッション4
何かなくなったら...
おはし、フォーク、スプーンがなくなったら...
いつも食事をするときに必ず使っている。
お箸やフォーク、スプーン、レストランやお店にも
必ずあり普通に使っている僕たち。
そんなものがなくなったら僕たちはどう食事するの
だろうか。
もしお箸やフォークがなくなったら普通は
インドのように手で食べるようになる。だが暑い
食べ物はどうするのだろうか。ラーメンなどの麺類
ポトフなどのスープはどう食べるのか。
僕は2つ考えた。
今記あるものをこんな新しいものが生み出せる
それは使いやすいようにして色々なことができる
ものだと思う
手でつかめないあつものはなくなるとが上の事か
おきかめ可能性は低い。
そして僕が実際に考えたものはハサミ型のもの。

ミッション#05

『雲と石コロ、もしくは葉っぱ』

秋になりました。
空や雲が美しいです。

付録のペンで手帳に1日1枚以上、
少しでも良いので雲の形を追いながら
ペンで描いてみてください。

部屋の窓
通学の電車の窓
授業中の窓
公園に寝そべって

雲の形をペンでおってみてください。

曇りや雨で雲が見えない場合は、
地面に落ちている石を一つ拾い上げて
形をおって描いてください。

石もないのなら葉っぱを。

立体的に上手く描こうと思わずに
形をみながらペンをはしらせてみてください。

1日最低1枚。



描いてみたら
雲だから石コロだから
見分けがつかない!

「たぶん形を造ることで」
「こう描いたら雲っぽくなる」
「なんで描き方を考える
ことから解放された」

雲と一瞬に
日記も書いてみた

じっくり見たら
一瞬描き、
1本の線が描きたくつた

絵は好きだけど、
塾長が描く木葉子を見た
逆に描けなくなっちゃった...
けども、頑張って1つ、
力を込めて描いた



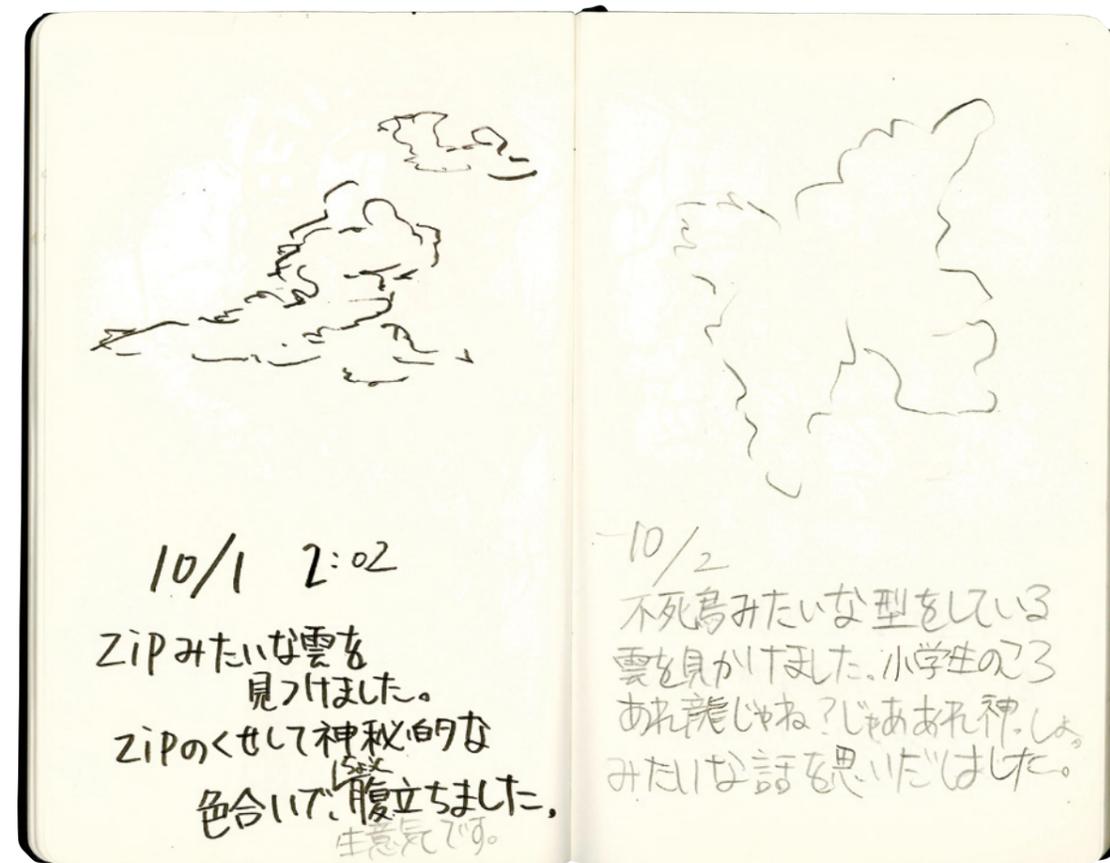
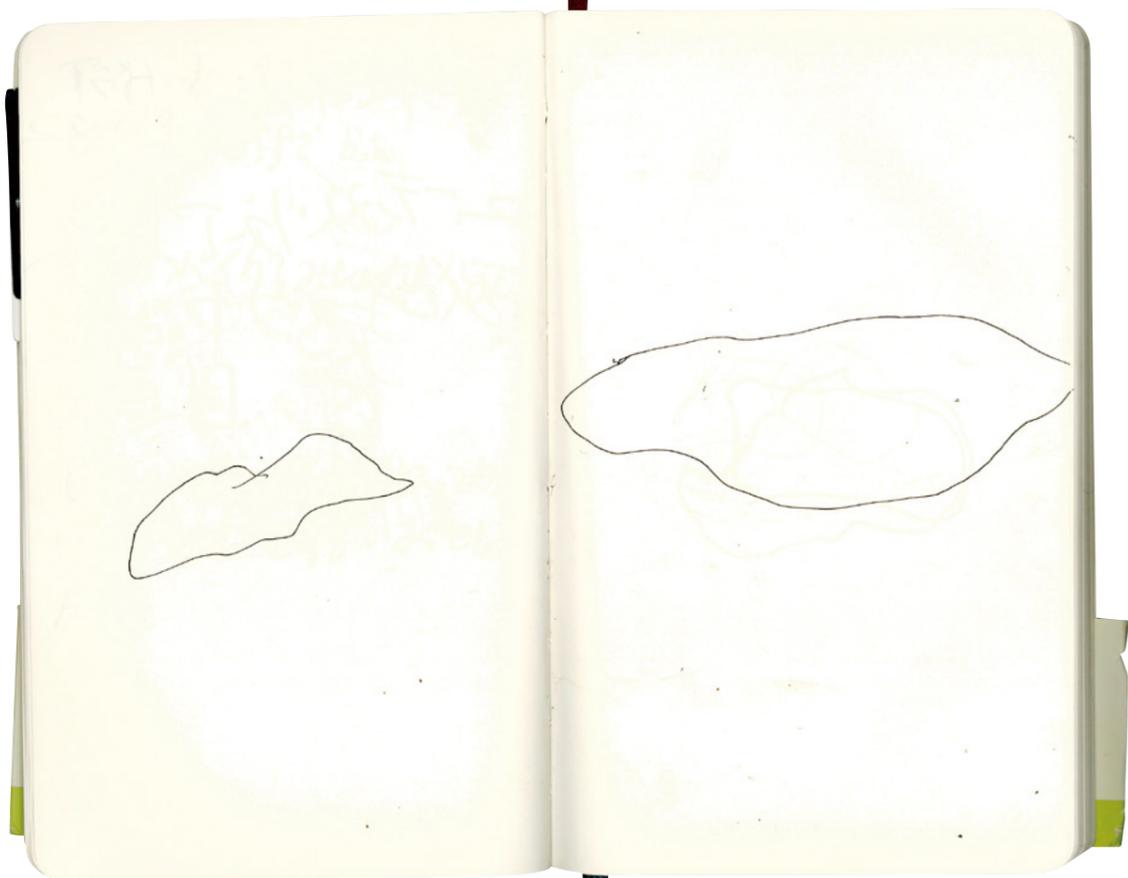
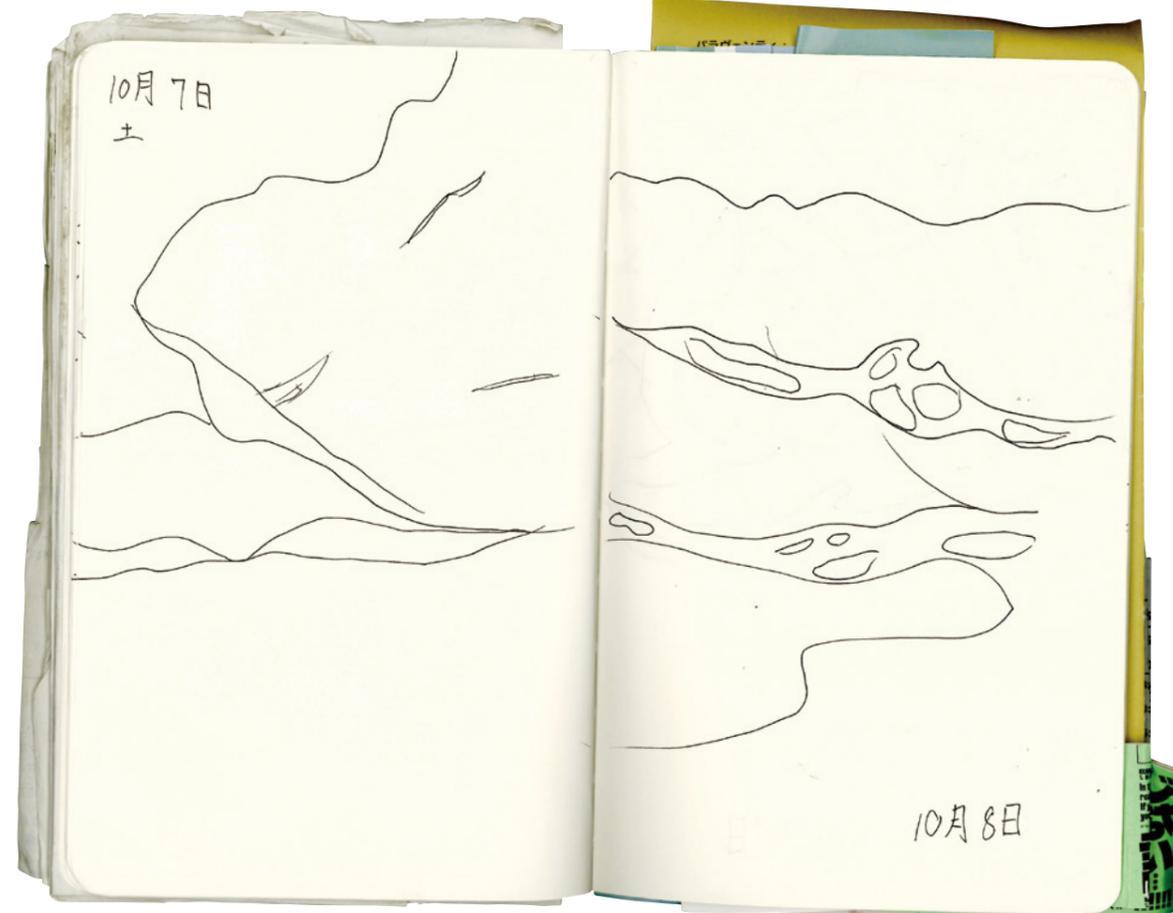
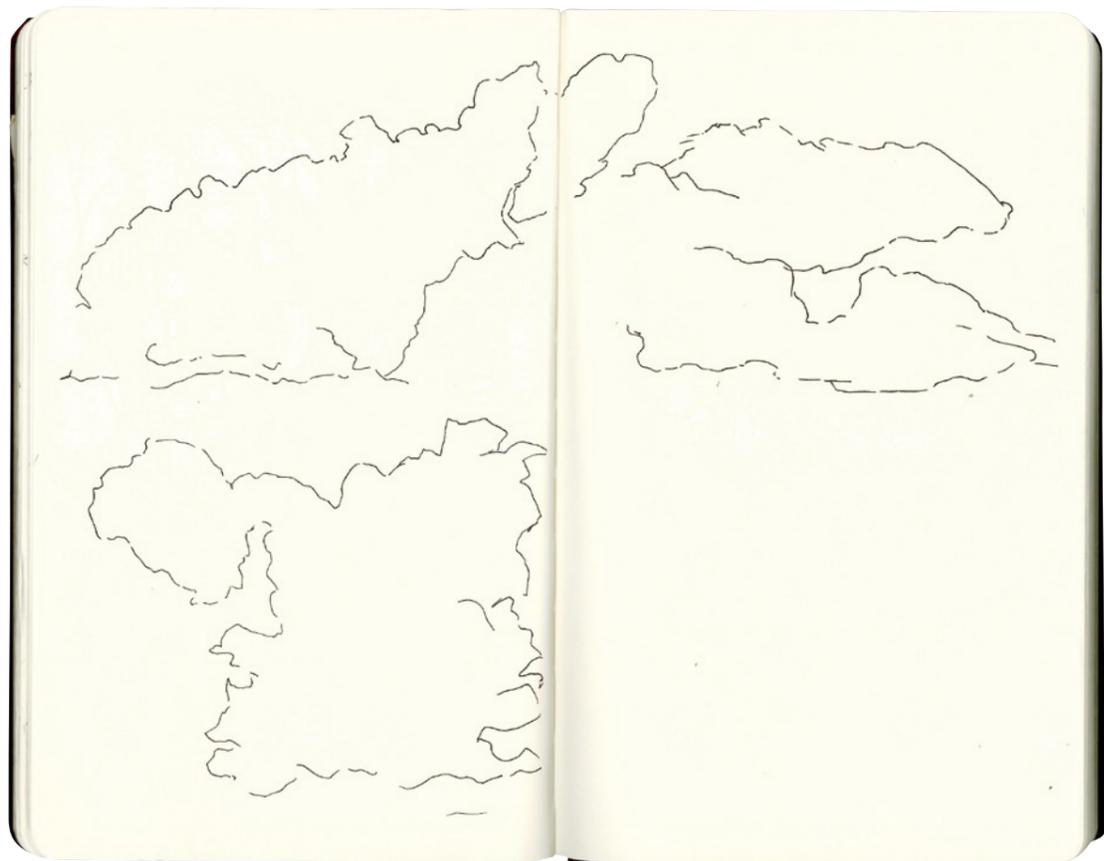
お便り 2023年9月号

急に秋になってきたね。新美塾も中盤に差し掛かっています。
前回のオンライン会でサラが読み上げた「窓がない部屋」のストーリー。荒削りな小説みたいで、何も存在
しない場所から、物語の世界が生まれる瞬間を目の当たりにしたような、素敵な瞬間でした。ありがとう。
学校の宿題やテスト勉強が大変だと思うけど、さらに僕が「無理はしないで」とは言ったけど、ミッション
は2週間の期間の中で1-2時間程度でも完成できるようにデザインしてあるので、頑張ってやってほしい
です。そうしたら、もっとこの半年の新美塾は深い経験になっていくから。よろしくね!
で、今回は、毎日少しでもやらないといけないミッションです……。忙しいとは思いますが、1日数分、トラ
イしてみてください。

で、まもなく新美塾も3ヶ月、「新美塾って何も教えてくれない?作っていない?」「全然専門的なことを教
えてくれない?」って疑問がわいてる人がいるような気がします。だから少し説明をさせてください。
これまでのミッション#01#02は写真ワークショップとしてもっと課題や経験ができるはずなのに、撮って
少しノートに少しはっておしまいだっし、ミッション#03は指を粘土で作ってLINEにアップするだけだっ
たし、ミッション#04は、何かがない日常を妄想したり実行する、そんな妙な宿題たち。
みんなは表現や何かを作るのが大好きで、みんなもっとうまく作りたい、技術や知識を学びたいという向上
心もある。そして、「習い事」「ワークショップ」というのは一つの技術を習得してより上手になる中での経
験をするイメージがあると思うので。新美塾は何もやっていないような気がしますか? でも、それは意識
的に専門的な領域に行かないようにしてるんです。それは専門性や技術はその道を見つけてからでも遅くは
ないと僕は思うから。 さらに言うと、最近、高校生や大学生を対象にしたワークショップは「社会人が仕
事でやるようなこと」を先取りして、グループワークしたり、実践的に何かを研究したり発表したりしま
すが、こういう「社会人が仕事でやるようなこと」って刺激的だと思うし、ぜひやってみたら良いと思うし、
学校の授業の意味に疑問を感じる人やすでに先の目標に向かってる人には有効かもしれません。ただ、新
美塾はその逆を行きたいと思っています。なぜなら、アートだからです。

僕は一応、美術や写真を専門にして仕事をしてきました。しかし、カメラをもう4年くらい持っていない。
絵なんてもう20年以上描いていない。でも、表現活動を続けている。現役のプレーヤーとして、誰かに美
術や写真を教えるということに興味がないかもしれません。(来年から2つの美術大学で客員教授になる予
定なので)、多分、中高校生に美術や写真を専門的にある程度は教えることも可能かもしれないけど、あ
えてしなかった。なぜなら、僕の仕事をしている世界で、「絵や写真の上手い人」「工作の上手い人」を本当
にたくさん知っているし、そういう中で競争して生き残った人々も見てきたけど、逆にそういう人でもあ
きらめてしまう「狭い世界」であることも知っています。そこで感じるのは、技術よりも大切なのは、幼い頃
や思春期に、たくさんの興味や関心や感動や怒りやコンプレックスとかそういう種をたくさん植えて、たく
さんの自分だけの疑問や発見をして、小さな失敗体験や成功体験をして、そういう自分だけの広くて深い経
験や世界観の根を作っているか、ではないかと思っています。そういう自分だけの深い興味を持っている人
(つまり自分という世界と素直に向き合い続けている人)と、技術だけを向上させてきた人の違いはなんだ
ろうと考えたら、自分だけの答えやアイデアを導き出せることにあるのではないかと思います。自分だけの
根を生やした人は大人になって社会に出た時、大工でもパン屋でもバスの運転手でも、どんな職業でも自分
だけのクリエイティブな仕事ができるし、最高だろうなと思っています。
例えるなら、、、根がないのに、大きな木をムキムキに伸ばそうとすると倒れてしまいます。新美塾の卒業
生の中から、妙な根をたくさん生やして、妙な木が成長して、誰も食べたことのない奇妙なフルーツをた
わに突らせてほしいなあ、と思うんです。
新美塾では上手な表現や発表ではなく自分自身と向き合うこと、花を咲かせるのではなく種を植えることを、
ベースにミッションを考えています。技術や筋力より柔軟性。その蓄積の見える形として白い手帳に書き込
みをしておいて、いつか自分を見失いそうな時に振り返れるものになってほしいと考えています。

と言うことで、今回は自分だけの雲や石ころを追いかけてみましょう。





田口陽子+東洋大学地域デザイン研究室《スケーパー研究所》2023年



谷口真人《私たちは一つの物語しか選べないのか?》2023年

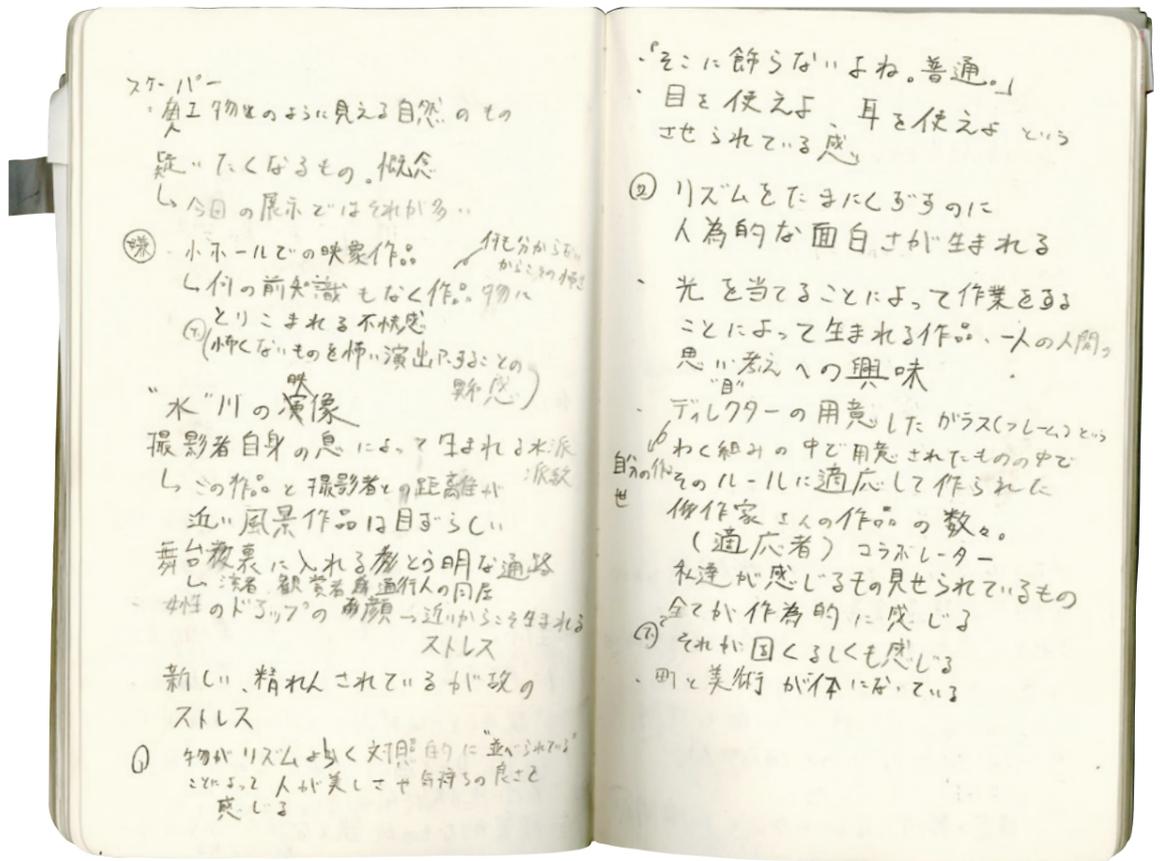
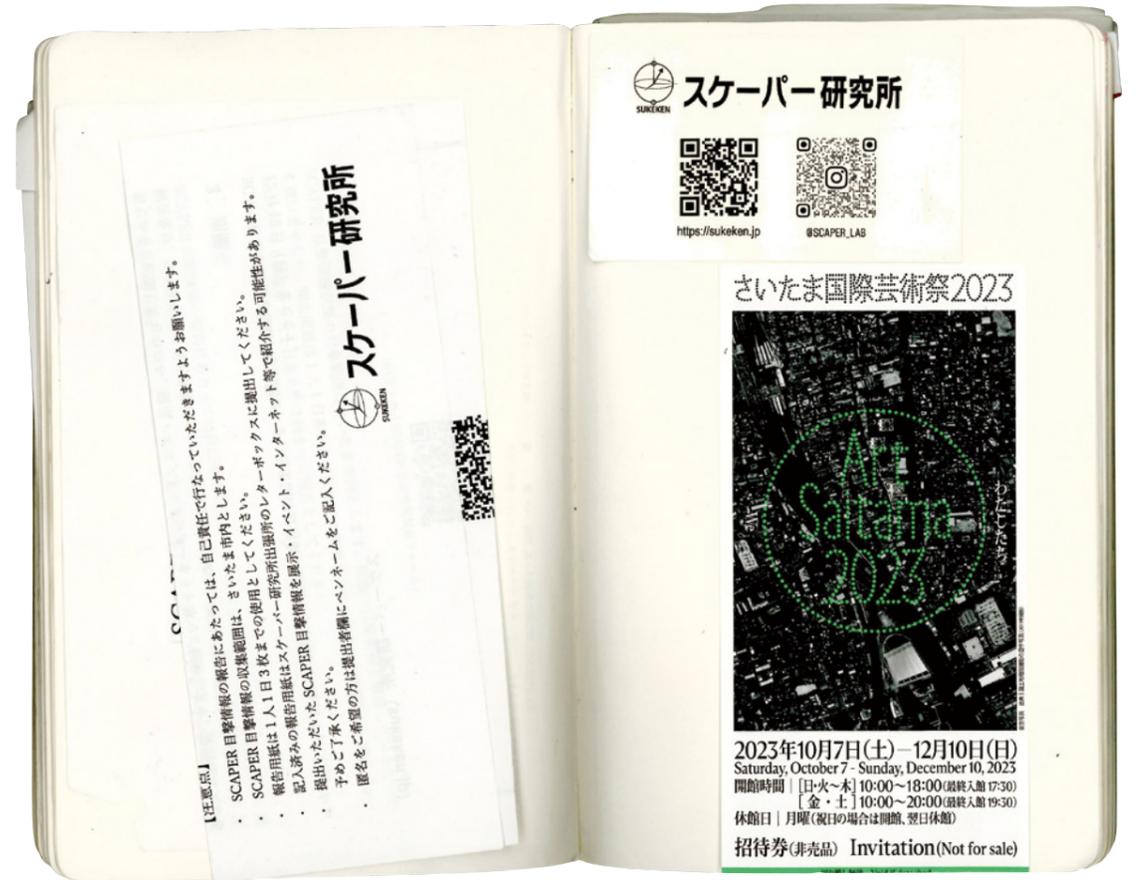


大宮だよ!全員集合!

10月29日(日)
13:00集合、17:00解散

「さいたま国際芸術祭2023」
旧市民会館おみや

会場は、展覧会を開催しているとは一見わからない、古めかしい建物。入口が3種類あったので、3グループに分かれてそれぞれ鑑賞をスタートした。展示室の中は透明な壁で仕切られていて導線がわからなくなっていたり、床に色々なものが置いてあって「どこまでが作品?」と疑心暗鬼になったり、自動販売機で売っていた謎味のドリンクを飲むことになったり…。数えきれないほどの仕掛けを味わった。見終わった後は会場近くの公園へ行って、みんなで輪になり、感想を共有した。(宮下)



ミッション #06

『ミッションを考えてください!』

これまでのミッションを参考にしつつ、
自分でミッションを考えてください。
みんなにやってもらいたいミッション! とか
みんなでやりたいミッション! です。

タイトルを面白くするの、
大事!

テーマは「日常の観察」「自分自身の観察」です。
それに少しでも関係していたらなんでもいいです。

みんなが悩んだり楽しんだりしながら
面白い表現が生まれてくるような。
そんなミッションをお願いします。

次のオンラインでみんなを選んで
実際にみんなで作っていきましょう。

1人2~3個ずつアイデアが出ました。

意見交換をして、最後はやりたいたいミッションに投票!

ミッション #07

タイトル

「大げさな功績」... 自分がやったことを盛って言う。嘘は禁止。

「どうでもいい年表」... 誕生日とかはナシ。

(良い例) 2017年: 初めて死生しおきび出され子

内容

「マニアック選挙権」... 自分にしか理解できないと思うことを挙げる

「8000歩歩こう!」... 音楽まきの禁止。毎言十五分以内のこと。 ^{大人になったらやらなきゃいけないことかもね。}

途中で見つけたものはスナップ or 写真に撮る

「君達から見た私」... スにまいたり情報で自分のプロフィールを作る

「物々交換」... お互いの納得のいくもので、相方は誰でもOK ^{わらべ長者}

「言葉と紙」... 好きな漫画・アニメ・小説・歌詞などから ^{かたいよ}

心に留めている言葉・衝撃を受けた一節を挙げる

「小根み話」... 人生で一番小根んでいることを皆に共有して消化する

「他の人への偏見を考えてみよう」... その人が持つような物、習慣、言いそうなことを考える(ただし人を傷つけないように!) ^{表現やアハにつけることかも。}

詳細・注意点など

小根み話... ちゃんと整理して文章にしないとダメ

→ あまり小根みことないからムリ、というメンバー2名。

8000歩... 2時間以内必要! 学校の後は天候?

大げさな功績... 嘘かどうかどうやって判断する? → 言い方を盛るだけ!

偏見... 新美塾のメンバーでやる? どういう関係性の人とやる ^{ムズい...}
のが面白いのか?

マニアック... 「どうしてそれが好きなのか?」をしっかりと答える必要がある。

物々交換... 全員で同じモノからスタートして、最後どうなったか比べる?
いつから家にあるかわからないモノ、捨てたモノとか
要らぬモノでやる? → 交換してもらう工夫が必要。

【重要】 次のオンライン会の前日までに、この用紙を書き、写真に撮ってスタッフにLINEで提出すること
翌日のオンライン会で発表したいと思います。(まずは匿名で書いてください。発表時に誰が作ったか聞きます。)
さらに、みんなが話し合っ、使用するミッションにしたいと考えています。

ルイズ・ブルジョワ《ママン》



ニナ・カネル《マッスル・メモリー (5トン)》



六本木だよ!全員集合!

11月19日(日)

10:30集合、17:30解散

-森美術館開館20周年記念展「私たちのエコロジー：地球という惑星を生きるために」
-「大巻伸嗣 Interface of Being 真空のゆらぎ」
「イヴ・サンローラン展 時を超えるスタイル」
「日展」国立新美術館

この日は六本木ヒルズにある巨大蜘蛛の彫刻《ママン》の下に集合。森美術館の現代アートのグループ展では、各々好きな作品を見つけたみたく、自分が思ったことをたくさん話してくれた。そこから国立新美術館に移動し、さらに3つのジャンルが異なる展覧会を鑑賞。ファッション展に夢中になって手帳にスケッチする塾生や、展覧会の内容にどんな違いがあるのか比べて考える塾生も。以前より、自分なりの展覧会の楽しみ方を掴んでいるみたいだった。(宮下)



長澤伸穂 展示風景

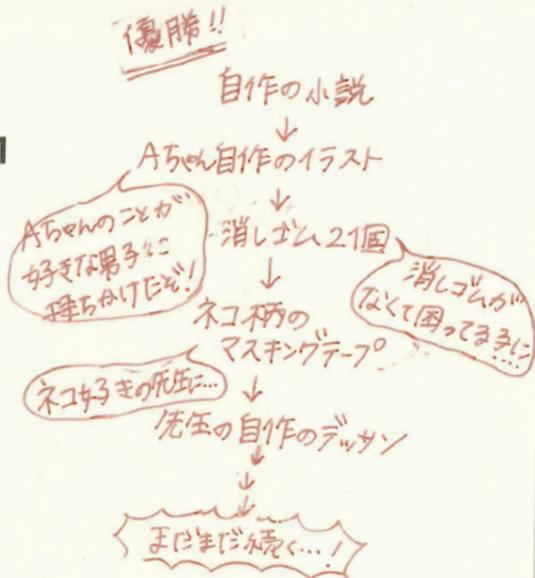


- うまくいかなかった...
- 需要と供給が合っていない...
 - 値段がないモノで試せばよかった...
 - 交換を持ちかける時、話し方が難しかった...
 - 価値が動くモノを使えば良かったのでは...!?

ミッション #07-1

『物々交換』

by あおい



なんでもよいので、あなたの持っている物や拾った物を誰かと物々交換してみてください。

その物自体の物語や交換によって起こった物語を書き留めて発表してください。

成功の秘訣は相手の欲するモノを渡すこと!

両方が納得できるモノを交換してください。

自分や相手のその物への思い出などを記述してください。

補足、いや蛇足

労働することでお金を得て、それで欲しいものを買う。これは当たり前。でも、一度お金に変換するのって本当に必要だろうか？ だから、あおいは物々交換を考えたのかもしれないね。

では逆になぜお金が発明されたのだろうか？

昔々、あるところに……、魚釣りが上手なAがいた、として……。彼はお米は作れないので、たくさん取れた魚を乾燥させておいて、それをお米づくりの得意なBと物々交換をしていた。と、そういう交換なら容易に想像できる。でも、自分が欲しくない物を持っている相手が魚を欲しがっていた時や、両者の価値感覚が釣り合わない場合なども起こってくる。他にも保存や大きさなど色々な条件の差も。そのなかで、どんな条件下でも同じ価値を持ったお金にまず交換する「貨幣制度」が生み出された……。

まあ、そんな感じだと僕は思うが……。もしかすると、Aが街で魚の物々交換に失敗して、がっかりしながら家族の待つ家に帰っている途中、お腹を空かせた猫の家族がいて優しいAは魚をあけてしまう……。すると、ある日、その猫が恩返しをしてくれる……。かもしれない。

いや、何が言いたいかというと、お金では買えないものってあるのだろうか？

さらにいうと、本当は価値のないものや無駄なことを相手に価値を感じさせることって可能だろうね。

ちなみに、みっちーが組んでいるグループ「新しい骨董」は2015年ごろから路上で拾ったゴミを物語をつけて販売（全て完売）していました。よければみてください。



ミッション #07-2

『マニアック選手権』

by あいこ

世の中に共感する人は少ない

自分にしか理解できないかもしれない

そんな自分だけの好きなものを見つけてください。

思いついたら写真やメモにしておきましょう。

オンラインでクイズ形式で共有しましょう。

客席から見た舞台の裏の暗さが女子を吸い込まれそう...

全然おしゃべりじゃない写真に関係ないハッシュタグをつけてインスタグラムのアップする

「今日の私」どこが違うでしょ? と反意に言ってみる (実は何も違わない)

授業中、ターゲットを決めて、ガン見する。気付かれるまでにかかった秒数を記録する。

この行為に名前をつけていね

補足

小学校低学年の頃、僕は「古墳マニア」でした。でも、同級生で前方後円墳などについて熱く語り合える友人などいるはずもなく、時間を見つけては、岡山で父親と、奈良で祖父と一緒に古墳巡りをするのが楽しみでした。小学校3年生になり引越して学校が変わった時、近所に住む「城マニア」の同級生と出会いました。古墳と城、全然違うのだけれども、近所の山には古墳も城跡も両方あって、一緒に山を散歩しながら過去を想像して熱く語り合ったのを覚えています。

しかし、最近、古墳が流行していますね。驚きました。下道少年も30年遅く生まれていたら、古墳マニアの友人がたくさんできていたかもしれません。

アートや表現を生み出すのに大切なことの一つに、「誰もしていないことをする」と言うのがあります。今はSNSでみんながやっていることをやるのが流行っていますが、誰もしていないけど、自分だけが好きなことはなんか表現の重要なきっかけになると思うので、みんな考えてみましょう!

ミッション#08-1

『作品と言葉と私』

byさら (+みっちー)

自分の好きな漫画やアニメ、音楽、
絵画や映画や詩や本や料理など。
衝撃を受けたり感銘を受けた表現/作品。

自分がいつも心にとどめている言葉。
自分の影響を受けた言葉や考え方。
それをみんなに共有してください。

音楽なら流してから話しても良い。
漫画やアニメも部分的に見せても良い。

これは12月17日の「卒業式」の時に
発表してもらおうかと思います。

思い出すたびに手帳にたくさん書き留めといてください。

漫画ならコピーして貼ってもいいね。

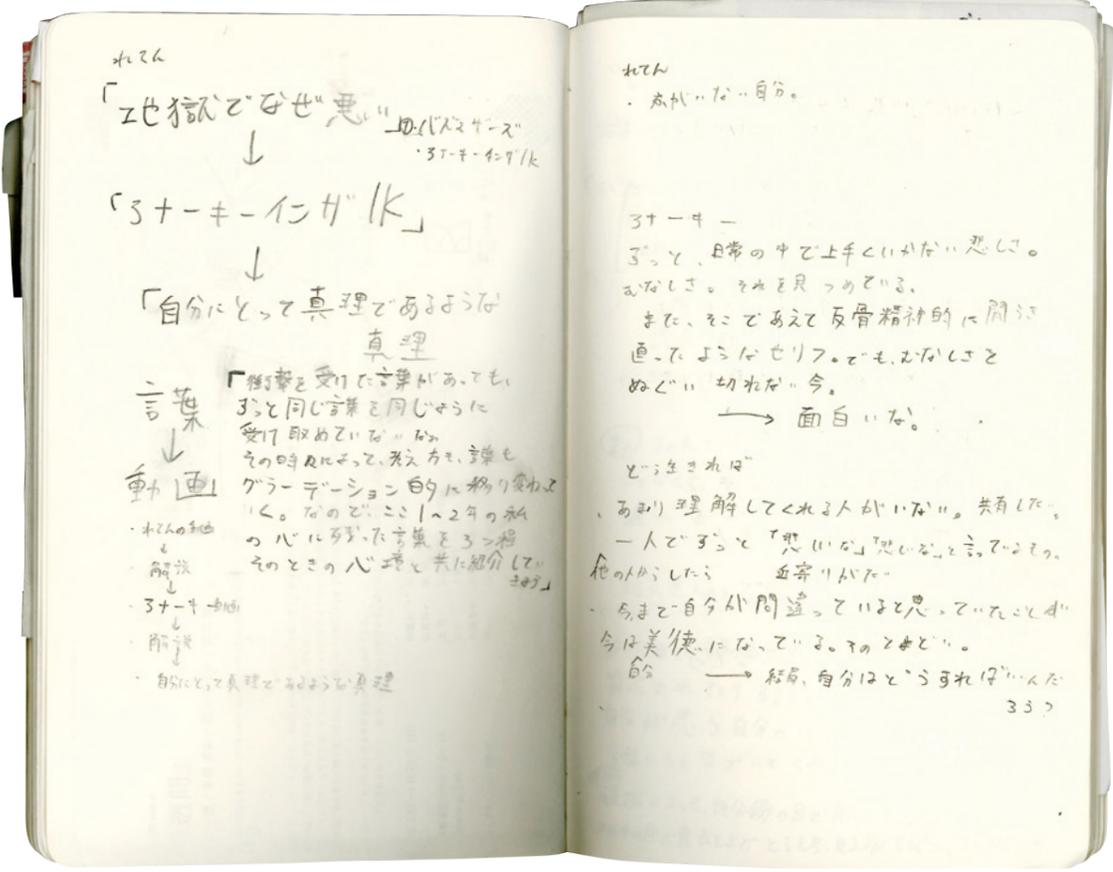
あとは、応募してくれた時のように、

動画にして発表するのも良いですね。

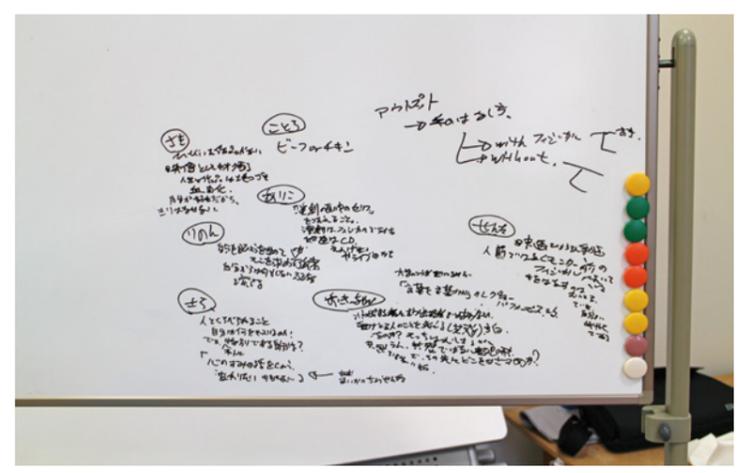
自分の好きな映画、演劇
のワンシーンや歌や本などを
紹介しつつ言葉を発表。

新美の7-7ショップルームで
動画やスライドに投影したり、
漫画を片手に語ったり...

「私は言葉には最も影響を受けたい」と
言うメンバーも。



ミッションの成果発表はいつもはオンライン
会でやっていただけ、ミッション#08-1
の自分が影響を受けた言葉については、最後
のオフ会でみんなの前に立って話した。好き
な歌・映画・舞台のワンシーンを紹介した自作
の動画をスライドに投影したり、マンガ本を
片手に語ったり。選んだ言葉や発表スタイル
からも、みんなの個性がうかがえた。(宮下)



「お金もなくて落葉で支えよう」

タヌキサにいて面白いね!

新美で拾った葉っぱにする?

ミッション #08-2

『新美に2日間だけのお店を作る!』

何をいくらで販売する!』

新美でやる意味を
考えよう!

国立新美術館1階に2日限りのお店を作り
みんなで何かを販売してみたいです。

今まで見たこともないお店を考えませんか?

何をいくらで売りますか?

値段も自由に考えましょう。

前回、物々交換にチャレンジしていましたが、
物の価値について、少し考えるきっかけになりました。
テーマは、謎な店、売るを遊ぶ、買うを遊ぶ、
笑ってしまう店、考え込んでしまう店。
普段の物の価値やお金の価値を「ズラして」考えてみよう。

みっちーは、無人販売所にするのも良いのではないかと
思っています。(3枚目を参考に。)
でも、駅弁売り子タイプでの販売や別のタイプのお店でもいいですよ。
みんなで同じテーマで色々売るのも良いし、
一人一人がそれぞれテーマを考えて売るのも良いし。

これが最後のミッションです。
12月6日のオンラインミーティングで話し合いの場を作りたいです。
アイデアを考えてみてください。

長時間アイデア会議をほしい...

これは結構難しいミッションなので
12月6日にアイデア会議を開いてもし面白いアイデアが生まれたら実行します。
でもこれはチャンスです! アイデアを練ってください。

日常の?

音を売る
声?

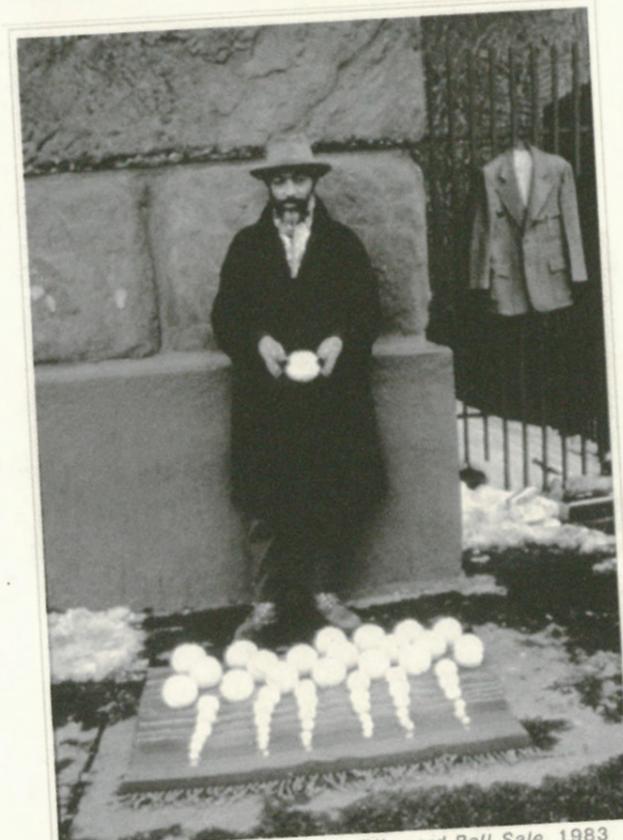
「良かったこと」を売る
「売手馬券」を売る
言い方を変えたら
売れるかわ?

参考資料 1

(一部抜粋)

島袋 いまでもバスキアはみんな知っているでしょう。その反対側にハ
モンズがいて、アメリカの黒人のアーティストからはいまでもものすご
い尊敬を得ている人で、これ何しているかといったら、冬のニューヨー
クで、雪でつくった雪玉を路上で売っている。もちろん買ったところで、
家に持って帰ったら溶けてなくなるし。でも、これって逆に言うと、い
ま僕たちは形がなくならないと思っているんなものを買うけれど、何年
か後には潰れてしまったりするだろうし、そういうのをニューヨークと
いうすごい資本主義の場所であざ笑っているみたいなのがあると思
うんです。この作品を僕が20歳ぐらいのときに知ったときは衝撃でした
ね。

デイヴィッド・ハモンズは90年代後半に日本にレジデンスで来ていた
ことがあるんですね。東京の青山にあったギャラリーシマダが招待して、
山口県にしばらくいたことがあって、そのとき僕は偶然会う機会があっ
て、少し話したりしたんですけど、そのとき名刺をもらったんですよ。
今回思い出して、探したら見つけて、写真撮ってきました。



David Hammons performing Bliz-aard Ball Sale, 1983
Photo by Dawoud Bey



浅田 これは傑作だね。

島袋 神妙な顔して名刺を出されたんですけど、これ、僕だけじゃなくて、
当時いろんな人に渡したのだと思います。日本に来ると、名刺交換って
すごいするじゃないですか。あれが彼にはすごい不思議で、ばかげたも
のに見えたんでしょうね。だから、「名刺」と書いた名刺をつくって、そ
れを名刺交換のときに出している。これも彼のひとつの作品だと思っ
ます。20年ぐらい前にももらったんですけど、きのうたまたま見つけて、
裏返すと、「CARD」と書いてある。一応英訳もしているんです。

彼はカタログとかつくるの大嫌いだと話していたし、展覧会もほとん
ど断っていて、いまや知る人ぞ知るアーティストになっちゃっています
けど、すごく重要な、有色人種の我々が世界で活動するときに、知っ
ていいアーティストだと思いますね。

【参考資料】

Real Tokyo

対談: 島袋道浩 × 浅田 彰 一休さんと現代美術(上)

https://realkyoto.jp/article/shimabuku_asada_1/



これは、みっちーの好きな作品を作るアーティスト
島袋道浩さんが衝撃を受けた作品の話。
この話には、路上で販売することを表現にするデ
ヴィッド・ハモンズ「雪玉セール」という作品など
が語られています。今回のミッションの参考に。



お便り 2023年12月号

「昨日の僕と何が違うと思う？」
と妻に聞いて見ましたが、普通に無視されたみっちーです。(さらのマニアックの真似参照)

挨拶おじさんに挨拶を返すあいこ。スプーンにメープルシロップを絡ませてシチューを食べるのん。勝手にガン見するさら。ストリートビューで先生の自宅に行くすずの。悪友と給食の時にアメンするせんた。味噌汁恐怖症のこら。インスタを映えない使い方にころおきちゃん。あれ？ あおいはなんだっけ？ ごめん。とにかく、最高に面白かったね。(妙に物々交換のコツを知っているすずのも最高。)

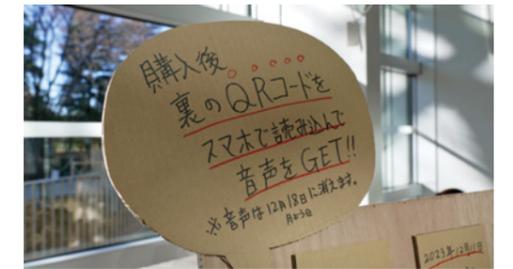
そういえば、先週鳥取を旅してトークイベントを聴きました。「自分で「これやってみよう!」と思って、勝手にやってみて試行錯誤して学んだ事は、学校で教えてもらったことと質が違うんです。何かを深く学ぶためには、とにかく自分で考えてやってみること。」そんなことを先輩のアーティストが話していて、僕も共感しました。僕自身、昔、近所の地図を作って友人に配ったり、古墳を探したり、こっそり漫画を描いたり、自分で絵を学びたくて画塾に行き始めたり、友人になった人が住む小さな島に行ってみたり、バンドを組んだり、知らない国へ旅して友達ができたり……。そんな全てのいろいろな行動から学びを得ている。その思いつきが思いつきで終わるのではなく、大きなプロジェクトになるかもしれない。

既に、みんなは色々やっているはずだね。学校が忙しい中でも、楽器をやっていたり、木に登ったり危ない高いところに登ってみたり、家で自分で料理をやっていたり、近所の猫の習性に興味を持って観察したり、ノートにかっこいいと思う4文字熟語を書いていたり、自分で小説や詩を書いてみたり、行ったことのない土地や町に行ってみたり……。そんな全ての、学校や授業やテストにでないことが、自分の知らないうちに未来の自分を作っている。中学校や高校のテスト勉強の何十倍何百倍も重要な自分だけの成長の学びになっていってもいいかもしれない。さらに、僕がそれに一つずつ加えると……。楽器をやって友人と音を合わせて感じる。友達よりも高い木に登ってみてあたらしい世界をみる。料理をしてそれを誰かに食べてもらう気持ち。近所の猫の習性に興味を持って観察することで手にする些細な発見を誰かに共有すること。ノートにかっこいいと思う4文字熟語を書いて密かに友人に使ってみる経験。自分で小説や詩を書いて誰かに読んでみる。行ったことのない土地や町に行ってみて写真を撮って発表してみる……。みたいに、密かにやってみることを、さらに他者や世界と繋いでみると、もっともって体験や学びは深くなる。失敗しても、恥ずかしい思いをしても、それもマイナスではなくプラスになる。自分の個性なんて、全方位的ではない。でも、だから、みんなバラバラの個性が、パズルのデコとボコが合わさるみたいに、合わさると、もっとも面白くすることができる。一人でもいいからそういう「仲間」ができるといいね。つか、絶対に会おうんだな、これが。探していたらふとした瞬間に。

これまで、「新美塾!」では、そういう学校の授業以外で表現をやりたい気持ちや行動を刺激して、自分だけの表現の学びの種をたくさん植えるきっかけになってほしくて、ミッションや集会を作ってきました。大学を目指す高校生とかからしたら、「もっと専門的で難しいことをやりたい!」と思ってここに入ってきてくれて物足りなかったかな? だけど、ここでやろうとしたことは全然幼稚なことではないと思う。逆に大人でも十分学べるレベルだったと思うんだけど。どうでしたか? 半年間お疲れさま。もう最後のミッションです。早すぎたなあ。もう半年やりたいなあ。最後のミッション、挑戦しましょう!

あと、書けなかったことを少し動画で話しました。ぜひ。

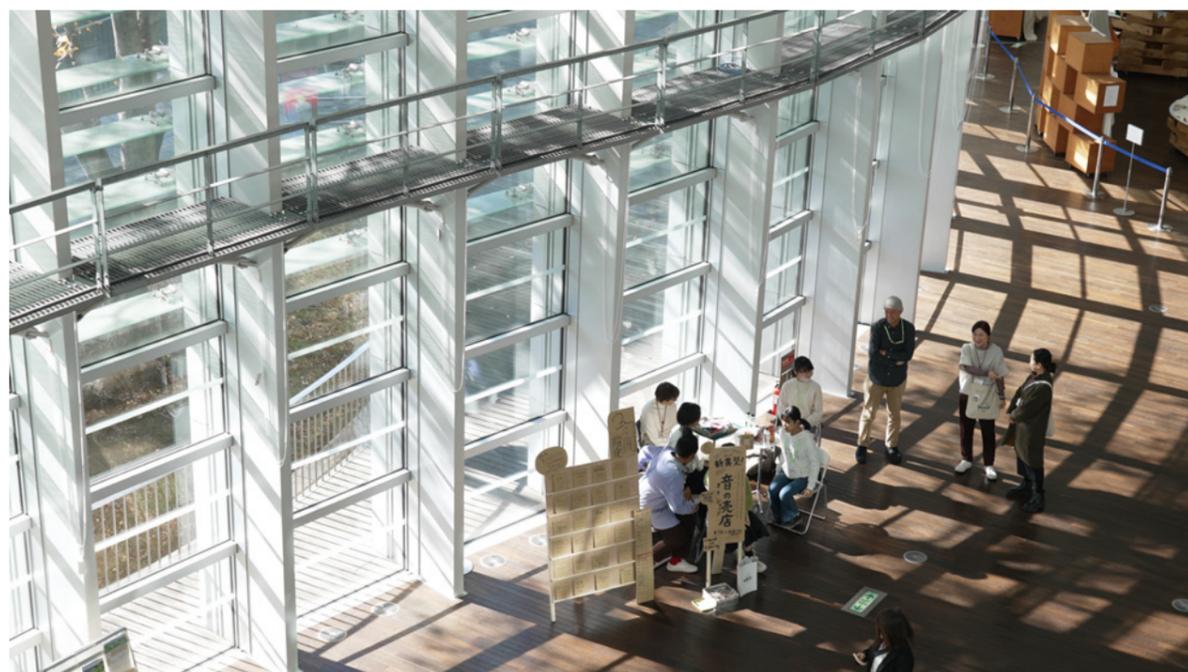




オトショップ開店!
12月16日(土)、17日(日)
10:00集合、18:00解散

ミッション#08-2で生まれたアイデアを2日間限定で実現した。場所は国立新美術館。音を売る店、その名も『オトショップ』。店頭で並ぶ、タイトルが書かれた段ボールのカードをひっくり返すと、塾生が録音した『声日記』を1日だけ聴ける二次元コードがある。支払いはお金ではなく、葉っぱ5枚。お客さんはその場でスマホから音を聴き、塾生と一緒に盛り上がっていた。葉っぱを集めるのが面倒な人のために『落ち葉屋さん』を始める塾生も現れた。その場で生まれてくるアイデアで変化し、通りすがりの人々を巻き込んでいく、パフォーマンスの現場のようだった。(宮下)





ミッション #09

『新美塾の半年間』

新美塾はどうでしたか？
 みっちーやスタッフに感想を伝えてください。
 僕らが来年からも新美塾を続けていくエネルギーや
 参考になりますので。
 この半年間を思い出して書いてみてください。
 よろしくお祈いします。

せっかくなので一つNGワードを作ります。
「楽しかった」という言葉を使わずに、
 なるべくたくさんの言葉を使って書いてください。

次の用紙に書いて、
 同封した封筒で送ってください。
 よろしくお祈いします。

半年間の新美塾!が終了しました。
みなさん、どうでしたか?

卒業式が終わっても、みんながダラダラと居残って話す空間は放課後のような空気感で、新美塾はこの半年間で本当の塾や学校のように、いや全然別の新しい場になったのだなあと、そして、昨年の1期とは全く別の形/出口になったなあととても嬉しく思った。ここからまだ半年続けたらさらに何が始まるのだろう……とついつい欲張って考えてしまうんだけど……、でも、すでにみんなの中には新美塾で生まれた新しい細胞が動き始めていると確信している。
だから……うん、これでいいのだー!

ミッション#08-1「作品と言葉と私」も、それぞれの個性が発表の中で光っていた。
だけど、ミッション#08-2「新しいお店を考えてみよう」は本当に新しい体験だったね。実は「新しいお店を考えてみよう」は、「出来なくて当然」と僕は思っていた。そのくらい難しいミッションだったと思うし、僕も美術館やお客さんの前で中途半端なことはやりたくないでアイデアが出なかったら実行しないつもりだった。でも、みんなのアイデアは見事に合体しながら形になって一気に動き始めた。みんなの録音した日常の音が、落ち葉で購入できるオトショップに。美術館の1階、そして外の路上に2日間だけ生まれたお店はいろんなお客さんとの「やり取り」を生み出した。みんなのいい部分が集まって、全く新しい一つの形になり、さらに別の奇妙なお店をもう一つ生み出し、目の前でコロコロと転がってっていく様子を目の当たりにした。今回のこのお店はみんなで作った「表現」であり「作品」のようなものになったし、美術大学の課題としても出せるようなレベルのこのミッションにみんなは挑戦して、しっかりと形にしてみせた。「音声と落ち葉の交換」はただの「お店屋さんごっこ遊び」ではあるけれど、普通の世界、ビジネスや合理性を優先する世の中で行われている「物質と貨幣の交換」ではないシステムを使いながら、買う感覚や売る感覚を残しながら価値を交換する「アート」「現代美術」の深い楽しさに触れる体験だったのではないかなと思う。

そして、美術館という場所に慣れ親しんだ僕やスタッフにとっても、美術館が、しっかりとした思考を元に行われる「遊び」を、(ビジネスや合理性を度外視して)お客さんを巻き込み笑って考えて楽しめる(贅沢な)「広場」「実験場」なのだを再確認させてもらうような体験だった。

放課後のような空気の中で、誰かが話していたのは、「新美塾で、もっと作品を作って発表しなかった……」っていう意見。それはオトショップが成功体験になったことを意味するし、とても嬉しいけど、でも、新美塾!でやりたかったことやコンセプトを思い出すと、やっぱり発表会/アウトプットをするのではなく、あえてみんなのそれぞれの日常を観察する力や眼を育てること/インプットにフォーカスしたい。たとえば、「公園や窓の外の雲をペンで毎日描く」というミッションがあったように、その絵が上手いとか下手とか展示するとか人を喜ばすとかではなく、自分の日常から空を見上げてペンで手帳に雲を描いてみる行為、自分の目の前の“形のない存在”を追う行為、そこで自分が何を見つけるか……。人に見せるものではなく、自分自身や自分の日常と向き合う“練習曲”のような新美塾。20代や30代になってから本番やアウトプットはいくらでもできる。でも、新しい世界をみたり、自分自身と向き合うこと、そういうインプットは10代でたくさんやっておいた方が、将来ためになると僕は思う。

今はネットやSNSが発達しているから、アウトプットはある意味で簡単にできてしまう。「誰でも表現者でありアーティスト」みたいになってきている中で、「私が作ったのを見て見て!」という情報が毎日大量に発信され続けている。そういう状況は、逆に表現力や鑑賞力の質の低下を生んでいると僕は思うところがあるんだ。だから、ここでは、みんなで美術館で展示会を見て話し合ったり、より深い表現を行えるための種を植えたり、少し芽を出せるような経験を一緒にしたいと考えていた。でも、最後に挑戦してみたアウトプット=お店を作ったことは本当に心躍る楽しさがあったね。笑

みんながもう少し成長して、作品やアウトプットができて、いざ発表だ!となったら、僕らにも連絡してほしいな。絶対に観に行くから。バンドのライブでも、演劇講演でも、展示発表でも、本の出版でも、お店やさんオープンでも、なんでもいいので、絶対に連絡してほしい。お願いだよ。

最後に、この半年の新美塾に参加してくれたみんな、大変だっただろうけど、本当にありがとう!
そして、彼らを後押ししてくれた保護者のみなさんにも感謝しかないです!ありがとうございました。
(さらに、この企画を支えた美術館のスタッフ、吉澤さん真住さん宮下さん柴澤さん、記録の丸尾さん、お疲れ様でした。
そして、塾長みっちーも自分で自分を褒めてあげたいです。笑)

みんな、この半年の新美塾での出来事や感謝を親に伝えてくださいね。
あ、あと、直島に遊びにきてね。もてなします。

(2022年12月号の加筆より)

自分でこの世の中に疑問や問いを持ち、自分だけの新しい道で世界を切り開く

「自分でやってみたいことを自分で考えてやってみる」
という当たり前のことは、結構難しい。

なぜなら、みんなはまだ学校生活という環境に毎日縛られていて、先生が作ったテストや授業や親の作った習慣の中において、「与えられることに慣れている」から。今は「もっと自分勝手にやりたい!」と、先生や親と衝突することもあるかもしれない。でも、自分勝手に何をどのようにやれば良いかわからない……。そんな時期かもしれない。(そんな時、高校生のみっちー青年はよく同級生と河原で空に向かって歌ったり叫んでいました。スマホもネットとかもなかったしね。笑) しかも実は、その一緒に歌っていた親友がコトラのお父さんなのよ。マジで。笑)

でも、高校や大学を卒業すると、すぐに社会人(つまり大人)。そんな息苦しく感じた学校や家から出ることになる。生まれてから社会人になるまでを20年間と考えると、そのあとの60年とかももっとも長い時間はずっと自分で道を決めて一人で勝手に生きていかなくてははいけない。だから今は、その準備ができるし悩める時間……。と考えると

れなくもない。
自分で船を作って、大海原に一人で旅立つ時は目の前に迫っている。もうみんなは浜辺に立っている。今までは、自親や大人の作った環境……つまり親の作った快適な大きな船に乗せてもらっていた生活から、大人になると、自分で小さな船を自分で作って、自分で方角を決めて、漕ぎ出す。一回一回、目標や目的地を決めて、旅を続ける。それは大変だけど、スリリングで楽しいはず。
まずは、自分一人が乗れるイカダや小舟を作る。それに乗って知らない町や国を旅する。徐々に、家族や後輩をた

くさん乗せるように船は大きくなっていく。(みっちーは妻と娘と猫だけが乗れる小さなヨットで航海中です。)もしかすると、そういう船の作り方や操縦の仕方を学ぶのが大学や専門学校かもしれないね。(もちろん直接社会に出て学ぶこともできる。)
船の旅には大きな嵐もあるだろうけど、大きな恋愛もするだろうし、世界は本当に美しいよ。
それを美しく感じる自分がいれば、絶対に大丈夫だから!
焦らなくても、いつでも何度でも大丈夫だよ。きっとシェアできる友達も見つかるはず。
未来も世界も私たちの手の中にあるし、無限に可能性をはらんでいるから。

アイアムビーフ!
さあ、帆を上げて、風を受けて、進もう。
歌でも歌いながら。

ミッション#8-1「言葉と私」で
あるメンバーが発表した言葉です。

卒業式翌日、直島にて

塾生の感想から



新美塾の中でも私が好きだったのは、新美塾メンバーの話の聞いているときでした。年齢も住んでいる場所も所属している集団も違う人達が一緒に展示会を見に行ったり、何か作ったりしていることって

凄くないですか!?それだからこそ気づける人生観やその人の持っている哲学、興味の視点があると思うんです。

今は、「人と違っていてもいいんだ」と「期待されている人間像になろうとしなくてもいいんだ」と、進歩・成長した自分でなくて、今の自分への肯定を少しずつですができるようになりました。他でもない自分に向けて問い直したり、感情をぶつけたりしている今の“自分への表現”の芽を絶やさずその対象を広げていくように発展させていきたいと思っています。

新美塾って学校みたいに何が学べるのか具体的じゃないし、かといってサークル程生徒まかせでもない、子供側も大人側も学び合っているという、私の経験したことのない最初から最後まである意味異質な環境だったなと思います。しかし、だからこそ私は心から興味がわいたし、自分の納得いく学びを得られたのだと思います。きっと、百人いたら百通りの学びがあると思うし、それを認め合えることが新美塾です。

私はここが大好きです。十年、二十年とここで育ててきたつながりがいつもどこかでつながっていただけらと思います。

私は自分の考えを誰かに伝えて話し合ったりすることで自分が考えていることがもっと細かく出来上がっていくタイプなんですけど、中学に上がると友達に伝えても、親に伝えても、どんどん自分の考えていることがなくなって行っちゃって感じてたんです。でも新美塾に入ってオフ会の時に色々な所に行った後に私の意見にみんなが耳を傾けてくれてみんなも考えたことを話してくれるっていう環境ができて最高でした。

みっちーとか新美塾の大人の人は私の考えに上から目線でのじゃなくて最後まで真面目に話を聞いてくれている感じがしてこの人たちにもっと細かく私が思っていることを伝えたい!!と思えて本当に嬉しかったです。新美塾にいる時は、自分が思っていることをそのまま話せて一番素直な状態で居ることが出来て



スッキリしてました。ミッションをやった後にみんなで共有するとみんなのやることがバラバラでびっくりすることが沢山あって面白かったし、そういうことも出来るのか!って自分の中での視点が増えました。

新美塾の卒業式が終わった日の夜すごい悲しくて喪失感がめちゃめちゃあって涙が出てきて新美塾はこんなに自分の中でか

い存在だったのかと思いました。ほんとに新美塾に参加出来て良かったです。私の人生の中でこの半年間は重要な半年です。

僕は新美塾初日、正直メンバーとなじむ事は難しいと思いました。中学1年生で人見知り、シャイ、心配病の僕は、この広い年齢層で男子が2人しかいない状況でメンバーと仲良くなることは難しい、ほぼ無理ではないかと思いました。ですが、新美塾は自己紹介から常識外で、ゲーム感覚で考えて自己紹介することができて、第1回が終わったらこの新美塾は凄くてそのうちメンバーとなじめていけると思いました。

それから約半年間、新美塾を終えて僕は今まで気にしなかったものを気にするようになったり、昔まではあまり考えなかったことも深く考えるようになりました。また、前より考えて色々な発想や案、他の人が思いつかないような物がたくさんできるようになりました。前まではどうなるか分からなくて怖かった事なども言えるようにもなりました。それらの事ができるようになったのは日常観察やマニアック選手権などの色々なミッションや、オフ会で展覧会を見て伝えあったり、オンラインでミッション報告をするなどの活動をしたからです。ミッションはどれもユニークでやっていて奇想天外でした!最終的にはメンバー全員とも話せるようになっていて、色々な友達ができうれしかったです。最終日の動画もいい感じに作ることができ半年前の自分より今の自分の方が格段にレベルが上がりました。この新美塾の事をずっと胸に入れてこれからの生活を過ごしていきたいです。

けんちくかの所に行く時めっちゃワクワクしてました!本当にこんなところ行くんだあ〜。住むんだあ〜。そっか。どくとく。でもカッコイイ!という感想しかありませんでした。その時は(今でもまだまだけど)言葉たらず。だけど、新美塾を通して(下道さんの話や生徒の人達の会話から)こういえばいいんだ!?ああいえばいいんだ!?というふうに学んでられました。

私の中で一番面白いと思ったオフ会はやっぱり最後の無人はんばい所けいかくみたいなやつです!初めての体験がたくさんありました。美術館の中でお店をやっている!?と思うこともありましたが、みんなで協力してできました。オンラインで一番面白かったのは、みんなそれぞれとった「写るんです」を見せあったことです!見なれないけしが多く、旅行に行ったようなかんじでした。今までの半年間ありがとうございました。楽しく体験したことが身につけてとてもうれしかったです!



最初に集まった時は自分より年下な子達ばかりで気後れしてたけど、ミッションを通してみんなが考えてることや自分自身が考えてるもの、好きな物・表現がなんとなく分かってきた

ような気がしてどんどん楽しくなった。生徒だけじゃなくてみっちー、新美の皆さん、アーティストさん達や展示から勉強することや吸収したい事もたくさんあったしもっと長くやりたかった!!

私はこの半年間の新美塾で新たな価値観や思考を多く植え付けることができたと思います。一番初めにみっちーが言っていた表現の木?の話が現実になったというか、他の塾生や新美スタッフ全員、塾長の言動が私の刺激となって私の表現の木をぐんぐんと成長させてくれたように感じます。新美塾の意見共有ではみんなの考えを並べていってその一つ一つを吟味していくようなスタイルが私にとってはとても心地の良いものでした。そしてもう一つ新美塾で得られたことが表現の拡張でした。以前の私は表現とは絵や立体、映像を媒体として見る者に感動や喜びを感じさせるものだと考えていました。ですが半年の活動を通して表現のより



広い捉え方を知りました。能作さんの自宅に訪ねた時、むき出しの鉄骨や配線は私の想像する「建築」の枠組から飛び出していました。そしてオトショップについても表現の可能性を

広げる機会となりました。六本木の名の知れた美術館の中でダンボールや木を使って子ども達が音を販売する、しかも葉っぱで。今思い返しても本当にすごいことをしたのだと思います。オトショップを通して経験・体験を生みだして初めての思考を持ったり、感情を引き出すことも表現の力だということを知りました。私が新美塾というコミュニティの中に入って、新しい感情を沢山得られたことは、新美塾を作ったみっちー、国立新美術館がした表現だったのかなと思いました。本当に新美塾に参加できて良かったと思います。多くの貴重で、新鮮な私の栄養剤を与えてくださってありがとうございました。

新美塾に最初に行ったときは人見知りなこともあり正直けっこう不安でした。

しかし、西大井の所あたりからじょじょになれていきました。で、そんな感じで場になじんでいき、新美塾に参加してなきゃまず行かなそうな美術館に行き、新美塾に参加してなきゃまず会わな

ような人達にも会いました。そんななんだかんだで参加してきた新美塾も11月位からもうちょっとで終わりかとか考えていましたが、最後らへんにやったオトショップは本当に良いけいけいになり本当に良かったです。このような新美塾で学んだけいけんをこんごもどこかで使っていただけら良いなと思っています。(もう使えてる気もしますが、)そんな感じで新美塾では色々なけいけんや、その他もろもろを得てとても良かったです。半年間の間ありがとうございました。2033年12月17日正午を楽しみにしています。



卒業後の保護者のアンケートから

質問事項（全10問から抜粋）：

- ① 応募を決めた理由、新美塾！に期待していたこと
- ② 満足度（選択問／5段階）
- ③ 質問②の回答の理由
- ④ 参加後のお子様の変化
- ⑤ 全体への感想・要望

れ採用された時の喜び、伝わるように表現することの難しさを感じて成長したように思うからです。

- ④ 学校の課題と部活と色々な製作活動と新美塾を両立しようと頑張っていたことで、計画的に、バランスよく過ごす工夫ができてきたように思います。また、下道さんや学芸員の方との対話が、普段接さない専門の視点からのお話を吸収し、自分の進路にもヒントになっていたようでした。
- ⑤ みんなで何か制作して、それを展示するような時間があっても面白かったかもしれません。下道さんの表現活動にも触れさせたいと思いました。

① 今後の進路を考えた時に、学校以外のコミュニティでの経験が本人の感性に良い影響があるのではと思ったから。

- ② とてもよかった
- ③ 下道塾長はじめスタッフのみなさんや、メンバーの子たちとの関わりをいつもとても楽しそうに話してくれたので。またフィールドワークも日頃触れることのないものに会おうという意味では新美塾に参加しなければ得られない機会だったと思います。
- ④ 自分のやりたいことは何なのかということに向き合うようになったと思います。
- ⑤ アート、美術館という領域で、こんなにも熱心に子どもたちの感性を育む場を作り、彼らの成長を見守ってくださる方たちがいるということに感銘を受けました。
小中高と地元の学校に進んできましたが、新美塾でのネットワークはかなり娘の世界を広げてくれたと思います。展示を鑑賞するだけという立場ではない形で新美術館という場所と関わりをもつことができ、そこがある種の「自分の場所」になっている様子は、このプログラムに参加する前にはあまり想像していなかった姿でした。これからも多くの子どもたちにこのような機会を届けてください。

- ① 枠に囚われず、いろんなことに挑戦して欲しいと思いました。
- ② よかった
- ③ 普通では見られない、美術館の裏側やアトリエへの訪問は貴重な体験でした。また、好きな事だけではなく、苦しい事にも挑戦できました。
- ④ 自分とは違う見方、違う価値観に触れて、自分自身を振り返ることができたようです。また、今までの漠然とした「好き」「嫌い」をもっと深く考えることができたようです。親としては、この取り組みを通じて親子の会話、意見交換が増えたのが良かったです。
- ⑤ 親と教師以外の大人と関わり、学べる機会があることは、子どもたちにはとても大切だと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

① 応募にはほとんど親は関与せずだったのですが、ゴールが明確でないものを掘り下げて行く価値というか、ややもすると合理的かどうかだけでやるかやらないかを判断してしまいそうになりますが、10代でどれだけ無駄なことや無駄なのにハマってしまうことに時間を費やすことって大事だと思うので、それに没頭する機会って親から与えられるような類のものではないので、そこを期待しました。

- ② とてもよかった
- ③ 親でも先生でもない大人と（+同世代と）、こういう距離感が不思議な関係のまま、それでいて自分や仲間の深いところに入っていきような経験は本当に貴重だと思います。毎回の感想を聞くと本当に楽しんでいるのが分かったし、その日行っ

たところや見たもの、仲間と話した内容を聞くと、そんな事を考えていたのかと感慨深いものがありました。みずみずしい話をたくさん聞けました。

- ④ なんとなくモノの見方の解像度が上がったとは思いますが。あど他のあらゆることにやる気が出なくても、新美塾の課題に対しては常に楽しんでいました。自分は何を出そうとか、みんなは何を出してくるんだろうみたいになわくわく感が生活の張り合いに繋がっているような感じでした。
- ⑤ これが本人の将来にどう繋がるのかはわからないけど、いつか点と点が線に繋がるんだらうと思いますし、自分がどういうことが好きなのかとか、物事をどう見てるのかとか、大袈裟にいうと自我のめざめのような出来事となったんじゃないかと思えます。

① 優等生的な気質のある子供に、現代美術の自由さや、新しい思考に触れて欲しかったから。

- ② とてもよかった
- ③ 子供なりに図書館で調べ物をして、教えていない美術家や写真家の名を口にするようになり驚きました。新美塾！参加以前に連れて行った美術展を反芻する様子も見受けられました。
- ④ 新美塾！終了の翌日に、映画研究部を作りたいと、ひとりで学校に直談判したようです。以前の子供からは考えられない行動です。生徒提案の学部設立は前列がないことらしく、実現するか分かりません。ですが、新美塾！のおかげで思いつきを行動に移せたことは、それだけでも有意義だと思います。
- ⑤ 新美術館での、落ち葉の貨幣で音を販売するポップアップショップでは、とてもたのしい体験ができました。下道塾長より、塾生主体での企画だと説明を受け、とても驚きました。塾生の皆さんが、多くの来館者へ積極的にコミュニケーションを取る様子もあり、素晴らしいと思いました。子供のなかに自主性と積極性が、うまく発生していると感じました。子供にとって、おそらく一生忘れられない経験となったことと思います。

- ① 美術が好きな娘が新たな発想や発見を見出せるのではないかとあって応募を勧めました。
- ② とてもよかった
- ③ やる気を持って取り組んでいた。初めてのところでも物怖じせ

ず楽しく過ごせるようになった。年上の人たちとの交流が刺激となった。

- ④ 都内に一人で出られるようになりました。大きな変化は見られませんが、心に響いているものがあり糧になっていると思います。
- ⑤ 娘はいつも楽しく過ごしていました。貴重な時間をありがとうございました。

① 今後の進路を見据えた先輩たちを見て彼女が自分自身について何か得ることができたらよいと期待しました。

- ② とてもよかった
- ③ 参加されているメンバーの方々のそれぞれの境遇などを知ること、また、アートに対してそれぞれが色々な捉え方をしていることを知ることなどによって、人と違った感じ方をすることに自信がついたようでより積極的になってきたと思いました。
- ④ 伝えること、聞くことに対してより積極的になったような気がします。自分の興味があること（日本の戦争時代の歴史の話）を急に話し出したりしてくれました。あと、ポキャブラリーが増えたような気がします。
- ⑤ 観る、感じるだけのアート体験ではなく、普段中々出すことがない自分の中にあるものを自分自身で引き出し、それを感じることに、他の人に伝えること、そして、伝える相手も同じ人間であること、など、表現を行う上での大切なことを体感することができたのではと感じ、とても有意義な経験を彼女は得られたと思いました。

スタッフコメント

新美で初めて、新美塾!のポスターを見たときは、思わず立ち止まった。異様にインパクトのある手書き文字、新しい表現の学び舎…よく分からないこのプログラムに、まだ一來館者だった私は目を奪われた。それゆえに、2期生から関わることになったときはワクワクした。これで、全容を知ることができる。しかし、すぐに全容なんて掴めないと悟った。それもそのはずで、新美塾!は、丁寧に塾生と向き合いつくる、どうなっていくか分からないプログラムだったからだ。成長真っ只中の塾生と、ミッションやオフ会を重ねていると、どんな木になるかと楽しみにしながら、一本一本違う若木に、水を撒いている気がした。塾生たちの下に、新美塾!の何かがじわっと染み込み、いつかに備えて貯えられていく。これからも、下道塾長が描く表現の木のように、根を増やし幹を伸ばすために。塾生と共に広がっていくイメージは、未来をこれまでになく待ち遠しくさせた。

今年度も、あのポスターが館内に貼られた。やはりこの先、どうなっていくかは分からない。だからこそ、私は新美塾!にいたいと思う。

柴澤希

半年間、下道さんから投げられるミッションに、私もコソコソと取り組んでいた。自分から出てきたものの貧しさにうんざりしながらオンライン集會に臨むと、塾生達が話すフィードバックの豊かさに驚かされる。塾生は、拙いながらも間違いなく、自身の言葉で、今の自分に起きていることを描写していく。彼らが怖気づくことなく(本当は怖かったかもしれない)ただ正直に話し、下道さんがそれを受け止める様に、私は頬を叩かれたような気持ちになり、なんでもないような話の最中にも目頭が熱くなることが何度かあった。感性の成長期とも言える彼らの貴重な時間をこの「新美塾!」というアートの現場に費やしてくれたことを、美術館の職員として本当に嬉しく思う。まだ見ぬユース達や、その周りに居る大人達にもこの時間をぜひ味わってもらえるよう、努めていきたい。

宮下咲

第2期最後のオフ会の前日、下道さんと新美塾!の舞台裏について語るトークイベントに出演した。そのとき語った、ちゃぶ台返しのお話をここに記しておきたいと思う。

下道さんにユースプロジェクトの講師を依頼して、内容を議論し始めてからの日々は、ちゃぶ台返しの連続だった。美術館の私たちは、実現可能なプログラムを…、無理のないボリュームで…と、丁寧に(必死で)ちゃぶ台の上にもものを並べようとするのだけれど、やっここ並べ終えた次のミーティングで下道さんにバーンとひっくり返される。またか、と気落ちするが、下道さんのお話を聞いているうちに、私たちが「もっとやりたい」という思いが強くなり、遂に、ちゃぶ台自体をどけることにしたという話だ。

「新しい表現の塾」を開くなら、まず、ちゃぶ台というボーダーはなくす。それは、美術館の私たちが一つの覚悟を決めるきっかけでもあったと、今は思う。

新美塾!第2期が終わった。ひっくり返せるものは色々あるようで、新美塾!にいますと私はいつも何かをひっくり返されている。塾長だけでなく、塾生たちからも。その度に、ベニヤ板を買いに走ったり、ロビーに出店させてと方々を説得したりと、武勇伝が増えていく。

2期生のみんな、卒塾おめでとう。これからもひっくり返す・返されることを恐れなくてください。

吉澤菜摘



卒業制作の音ショップをみながら、ふと思い出した。昔、ロンドンの美術館でおこなわれたユース・プログラムについて、担当者にインタビューをした時のことだ。その時の相手は、今の私と同じような立場で、プログラムの目的の一つとして「私たちスタッフはいなくなる方がよい」と言っていた。つまり、スタッフがあれこれ手を焼かずとも、ユースが主体的に何かをなすことが大事、という主旨の話だったと思う。実際、音ショップは2日間のうち見た目も、お客さまとのかかわり方も、スタッフそっちのけで生き物のように彼らの手で変化していった。そんな彼らの成長を目の当たりにできている幸福と、子離れしなくてはならない親の切なさのようなものがまじりあう複雑な心境を味わった。ある意味「いなくなる」は、成長とともに必要がなくなるということで、見守り伴走する大人から、対等な人間関係に移っていくことなのだろう。それは新たな関係の始まりなのだから、健全で、喜ばしいことだろう。でもね、そんなに急いで大人にならないでいいよ と最終日、彼らの背中を見送りながら、心の中でつぶやいた。

真住貴子

2期目の新美塾。

最初にスタッフ目線の話からになるが、このようなプロジェクトの2期目は、前回との違いを意識してしまいがちだ。けれど「学びの場」と呼べるようなプロジェクトにおいては、何回目だろうと、そういう意識はなるべく捨て去ってしまった方がよい。

新美塾の場合、ユース達にとっては全てが初めての場であり関わる側は、まささらな状態でその場に居る子ども達を見つめられるか。を、大事にするべきであり、前回との違いは結果論でしかないと考える。

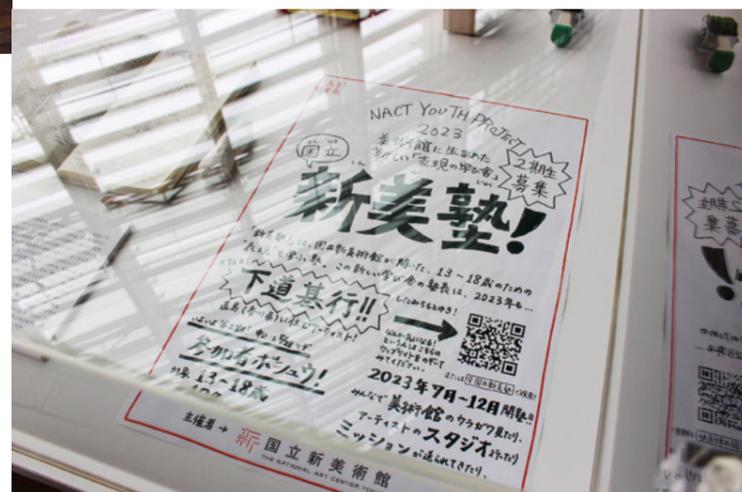
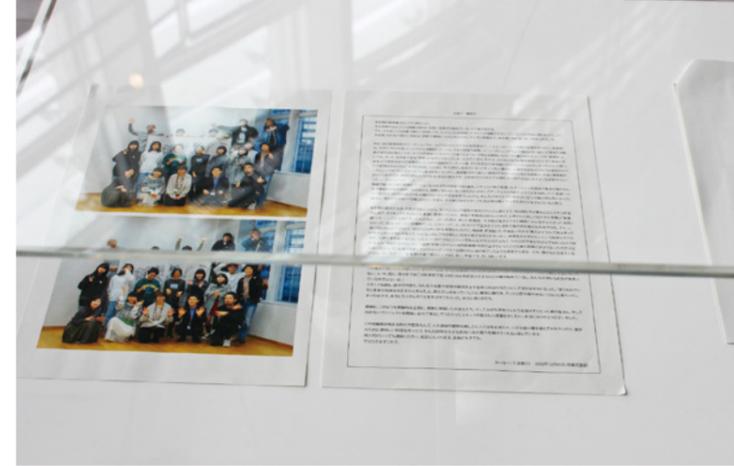
その上での話として、2期目のユースは1期目の活動内容がある程度知れた状態で参加したためなのか、自分の中にある「訳の分からなさ」は一旦置いて、自分の軸を持って参加した人が多い印象を持った。

そして、その軸が少しずつ滲みだし、周りとの違いを意識しはじめ、少しずつ少しずつ混ざるような、また混ざらないような状態を経て、それぞれがもう一度自分の中に眠る違和感を見つめなおす、そんな感触があったような「気が」した。

日常の中で生まれる違和感や表現の種も、そういうサイクルの中で生まれてくるものなのかもしれない。もしかすると、第1期はまるごと非日常で、第2期こそが日常の中に溶け込み始めた新美塾だったのかもしれない。

丸尾隆一

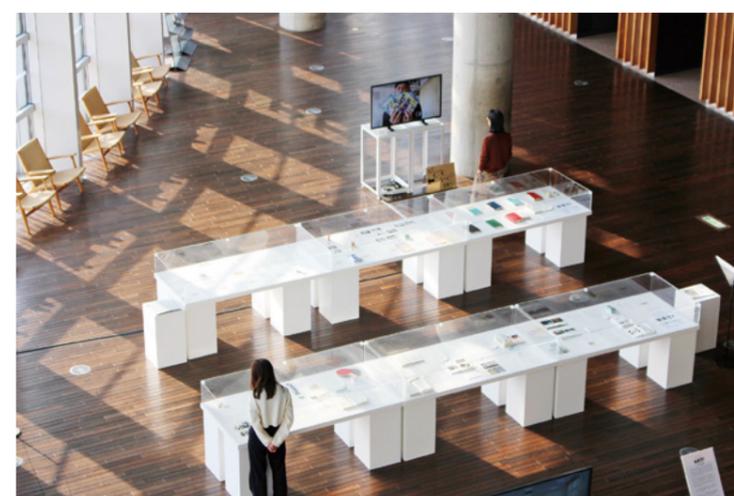




「NACT YOUTH PROJECT 新美塾! 2022-2023 2年間の軌跡」

2024年2月21日(水)～3月25日(月)
国立新美術館 1階ロビー

新美塾!の2年間の取り組みをよりひろく知ってもらうため、来館者が多く立ち寄るパブリックスペースで、報告としての展示を行った。展示ケースには、手帳や塾生が作った指(2023年度ミッション#03)、“新しい”箸(2022年度ミッション#05)などのミッションの成果物が並ぶ。展示を見て、3期生募集に応募してきた中高生もいた。



NACT YOUTH PROJECT 2023 新美塾!

主催：国立新美術館
事業支援：株式会社 小学館
協力：モレスキン・ジャパン株式会社

塾長：下道基行
2期生(50音順)：あいこ、あおい、いろは、おきっちゃん、かほ、
ことら、さき、さら、すず、せんた、りのん
国立新美術館スタッフ：吉澤 菜摘、宮下 咲、柴澤 希、真住 貴子
国立新美術館インターン：弭書榛(ミ・シヨシン)
撮影・ビデオグラフィー：丸尾 隆一

《NACT YOUTH PROJECT 2023 新美塾!》記録集

編集：国立新美術館、下道 基行
記録集デザイン：畑 ユリエ
発行：国立新美術館 〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
発行日：2024年8月30日

©国立新美術館
ISBN 978-4-910253-14-5

謝辞

新美塾!のためにご協力いただいた
関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

能作文徳

アーティゾン美術館
インターメディアテク
さいたま国際芸術祭実行委員会
森美術館
(敬称略・50音順)

小学館 SHOGAKUKAN

国立新美術館の
NACT YOUTH PROJECT 2023 新美塾!は
株式会社 小学館よりご支援いただいております。



国立新美術館ウェブサイトでは
新美塾!第2期のダイジェスト動画をご覧ください。



